

古賀詳二の一日一話

その2

(2009年4月8日～2009年5月31日)

副題

「理想と現実の狭間の中で夢を諦めるな」

目的：

さて、今年は「松下幸之助の一日一話」に変わり、「古賀詳二の一日一話」を書きたいと思います。この100年に一度と言われる大不況の中、日々刻々と変わる出来事を通じて諸行無常の世相と自分自身を見つめ、どのように思考・行動したかを記録するものであり、また私の人生観を通じて社員の成長に役立ち、また社員のこれからの人生が多幸であることを祈念するものです。

2009年1月5日
コガソフトウェア会社
代表取締役 古賀詳二

(経歴)

1955年11月11日 長崎県南高来郡小浜町に生まれる。
1974年3月 長崎県立諫早高等学校を卒業する。
1975年4月 大分大学工学部組織工学科に入学する。
1979年3月 大分大学工学部組織工学科を卒業する。
1979年4月 某ソフトウェア会社に入社する。
2000年2月 同社の経営方針に失望して退職する。
2000年3月21日 コガソフトウェア株式会社を設立する。
2001年6月 新潟県長岡市の異業種中小企業(3社)ともに環境ビジネスを模索する(株)ウェブドゥを設立、取締役に就任する。
2005年8月 安心安全な社会実現を実現する製品を作るネイチャーインターフェース社の取締役に就任する。
2008年8月 新産業創造を目指すWINヒューマンレコーダー社の取締役に就任する。
2009年3月31日時点、コガソフトウェアは東京都上野に事務所を置き、社員数130名、年商約10億円(創業時の売上高の約20倍)のjava言語を使用したウェブコンピューティングとコンピュータシステムの基盤構築を得意とするソフトウェア受託開発会社である。主要取引先はNTTコミュニケーションズ殿とNECソフト殿である。

4月8日（水） 「真理の門」

私は無信教であるが新約聖書も読むことがある。その中の言葉に感銘を覚えるからである。

新約聖書のマタイ福音書第7章第13節にこんな文章がある。

狭い門からはいれ、滅びにいたる門は大きく、その道は広い。

そして、そこから入っていく者は多い。

命にいたる門は狭く、その道は細い。

そして、それを見いだす者が少ない。

偏差値の高い大学を受験するとき、難関を「狭き門」と言っている。難関の資格や公務員試験にも使われているがそれを手に入れた後、幸せになっているだろうか？ノーベル賞とか文化勲章を受章した人は幸福である。前者は自分のため、後者は人のために努力した違いがあるからである。

命にいたる門とは真理の道に入る門と解釈できる。高次元の欲望を実現することは極めて困難で、険しく辛い道程なのである。その道を歩き続けるには目標とか信念がなければ、挫折してしまい、楽な広い道を歩くようになる。これでは真理を知ることは出来ない。狭き門に入る条件は素直な心であること。信念を持つこと。目標を持つこと。最後まで諦めない強い意思を持つことである。そうすれば、真理の門を潜り、真理に至る細い道を歩み続けることができる。

私はその細い道を確認しながら歩いているつもりである。

2004年11月24日 「不可能を可能にする」

当社は創業以来従来型の経営手法にとらわれず、独自の方法で徹底的に新しい経営を確立している。不可能を可能にすることに他ならない。

1. 徹底的に間接要員を作らない。事務処理の合理化を計った。作業の標準化したりや従来に行われていた無駄な作業を省いた。また、事業を多角化しないように心がけている。

2. J A V Aを使用したウェブコンピューティングに特化することで教育の質や実務の高度化を図り、同業他社との差別化を図っている。

3. もっとも難しいのは経営の理論化であり、局面での判断や決断である。これで企業の発展の度合いや業績が決まる。ここは脳で考えているのではなく、小脳で処理しているような気がする。論理的な思考より、過去の経験に基づく直感的なものである。

4. もっと重要なものは目標を達成したいと思う情熱である。これが不可能を可能にする。

2004年11月25日 「必死に生きる」

必死とは失敗すると取り返しがつかないという気持ちで全力を尽くすさまと辞書にある。

命を掛けて彼女を死ぬまで愛せるかと問われたら、大体の男は「YES」と答える。しかし、命がけで愛せるなら、大喧嘩もしない、過度の肥満にならない、浮気もしない、結

婚しても離婚などしない。多くの場合、社交辞令であると考えて良い。死ぬまで命がけで愛せる男性を伴侶にした女性は長い年月美貌を保てることは疑う余地はない。女性を若くする秘訣は命がけで愛することである。男性は命がけで愛せると思う女性を見つけるように努力しなければならない。途中で進路変更しないように注意すべきである。

では、命がけや必死で生きていくにはどのようにすればよいか考える必要がある。

有言不実行：これは信用できない。命賭けで生きていない、死ぬまで逃げる人生を過ごす。

無言実行：計画しないのだから、実行しても価値がない。

有言実行：孔子の言葉であり、計画して行動しなさい。

現在ではPDC（Plan, Do, Check）に相当する。生きる上で重要な考え方である。約束を守ることと同義語であろう。

次に有言実行でも有言したことが高いレベルであれば、もっと良い。これを目標や夢と置き換え、考えたら判り易い。目標が高ければ高いほど、困難さは増す。必死にならないと達成できない。その為には困難を越えるだけの創意工夫や精神力が必要になる。これを情念とか信念とかの言葉に表現できる。ただし、その念は仁を基盤にしなければならない。

4月10日（金） 「入学式」

4月9日の昨日、真新しい制服を着た娘と嫁さんと共に麹町にある明治38年に設立された私立の女子中学校の入学式に行った。都心のど真ん中にある学校には校門などはなく、道路からすぐにビルの校舎になっている。平成14年に落成した新しい校舎の前の数本の桜は満開を過ぎ、落下した薄ピンク色の桜の花びらを踏みながら、校舎内に入った。教職員からの「おめでとうございます」の言葉に会釈をしながら用意されているスリッパに履き替え、綺麗な校舎の廊下を歩き、地下にプール施設があるというアリーナの立派な体育館に入った。薫、松、竹、菊、欄、萩などのクラス名ごとに分けられた父兄の席の最後尾に座った。ぞろぞろと保護者が入ってくる。夫婦での参加が大半、母親だけは少数で、離婚したのか父親と祖母の参加が気になった。後ろから見ていると私よりかなり若い父親達の頭部が森林伐採された熱帯雨林のように地肌が露出していることにも気になった。ストレスが原因なのかと思いをめぐらす。

式の時間を迫り、生徒の入場が始まる。自分の娘の姿が何処にあるのかと探すと同じ服で区別がつかない。クラス名と順番で見つけ、嬉しい。中学生197名、高校生122名の入学式が始まった。クラスごとに一人一人呼ばれて返事しながら立ち上がる。全員が紹介された後、校長の挨拶があり、来賓などの祝辞などと式は進行する。わが子のためとはいえ、祝辞は眠たく、我慢して眼を見開く。入学式が終わり、教室に移動した。窓から光が射す明るい清潔な教室に安心する。

娘は幼い頃から、ピアノを練習してきた。娘のピアノの先生は若くて美人である。彼女にはコンサートの依頼が多く、最近出版社からの依頼で本を出した実力のあるピアニストである。クラブ活動では吹奏楽部に入って、多分ホルネットを吹くと言っていた。大学は

音大に入り、将来ピアニストになりたいとの夢がある。その夢に向かってまっすぐに進んでもらいたいと願いながら、娘の中学校の入学式が終わり、校舎を後にした。

2004年11月27日 「天分を発見する」

人それぞれに血液型も違う、蛋白質も違う、遺伝子も違う、育った家庭環境も違う、育った地域特有の気候や文化も違う、要するに同じ人間はいないのである。それぞれに異なった天分を持っていることは確かであろう。しかし、多くの人は自分の天分を知らなくて生きている。なぜ、自分の天分や特質を知らないで生きているのか？強く生きることをしていないから、自分を発見できないのであろう。

鈴木民二氏は天分を発見する方法をこのように述べています。

天分の発見

天分は発見できましたか。

まだ確信をもって答えることができない人は、次の問答を思い出してください。

「わたしの天分はどこにあるか分かりません」

「一つのことを続けることです」

「どのくらい続けたらよいでしょうか」

「三年千日続けることです」

「そうするとどうなるのでしょうか」

「三年千日続けたものは、天分を湧かす井戸に変わります。汗とともに天分が面に出てくるのです」

使命との出会い

使命との出会いは実現しましたか。

まだ、使命が見えないようであれば、もう一度、次の問答を思い出してください。

「わたしの使命は何でしょうか」

「あなたの天分を生かして、人に役立つことです」

「天分を生かすにはどうしたらよいでしょうか」

「天分を湧かす井戸を一つ、二つ、三つと増やすことです」

「三年千日続けたるものを増やしていけばいいのですね」

「そうです。そうすると、それらの井戸の中でひときわ水量の豊かな井戸があります。

それこそ、あなたの天分を生かして人に役立つ領域です」

「水量が豊かであるかどうかは、どうしたらわかりますか」

「次の三つの条件を備えています。

①興味が尽きない。②疲れを覚えない。③終わりが来ない。」

天分とは好きなこと。

成功とは好きなことを諦めないで最後まで続けること。

使命とは天分を生かし、人や社会に役に立つことすること。

2004年11月28日 「落伍者と成功者の特徴」

日々の考えたかとか日々の生活態度で大きく人生が変わる。落伍する人と成功する人の特徴を箇条した。なるほどと思えば理解したことになり、改善できることは明日に延ばさないほうがよい。

1. 落伍する人の特徴

明確な人生目標がない

向上心がない

教育が不足している

自分をコントロールできない

病気がちである

幼少の頃の不幸な環境による影響から抜け出せない

一日延ばしの傾向がある

忍耐力がない

否定的な性格を持っている

過剰な性欲または同性愛である

ギャンブル好きである

優柔不断である

恐怖を克服できない

配偶者選びに失敗している

過度の用心深さがある

協力者選びに失敗している

迷信を信じ、偏見を持っている

職業が向いていない

集中力がない

浪費癖がある

熱意がない

狭い心で物事を考えている

不摂生である

協調性がない

努力なしで富を得たいと思っている

嘘をつく習慣がある

利己主義と虚栄心である

当て推量が多い

2. 成功する人の特徴

積極的である。

明るい心を持っている。

前向きに考えている

困難を乗り越えるパワーを持っている

目標を立てて実行している

異性をひきつける魅力がある

仕事に自信を持っている

学習の効率を高める工夫をしている

魅力的になるように努めている

恋愛に自信を持っている

心の安らぎを持っている

心の安らぎを得る手段を持っている

心と体の疲れを癒す手段を持っている

忍耐力を高める工夫をしている

意欲を持続させる工夫をしている

記憶力を高める工夫をしている

学習の習慣を身に付けている

集中力をつける工夫をしている

誰とでも話することができる

不安・恐怖を打ち破ることができる

富を築ける

怠け癖を直すことができる

自分に自信を持っている

安らぎのある家に住んでいる

決断力が身につけている

美しいボディラインを作る努力をしている

魅力的な表情をつくる努力をしている

仕事仲間と良き関係を保つ努力をしている

整理整頓の習慣を身に付けている

時間を管理している

禁煙している

説得力を身に付けている

営業成績を上げる工夫を知っている

仕事に必要な情報を常に得るように工夫している

正しい意思決定力が身につけている

読書の習慣を身につけている

多くの人の前で話すことに自信を持っている

運動の習慣を身につけている

憎しみ・ひがみねがみを持たない

反省をする習慣が身につけている

日記を書く習慣が身につけている

規則正しい生活をする習慣が身につけている

語学を上達させる努力をしている

数学に強い

健康への回復を早める工夫をしている

悩みの解消する方法を知っている

経済的な安定を図る方法を知っている

素直な心を作っている

ビジュアルイメージのちからを身に付けている

包容力が身につけている

さわやかな目覚めできる生活をしている

4月12日（日） 「大切なもの」

失くさせないもの

失くせないもの

失くしたくないもの

それが家族、友達、恋人、健康、平和、仕事、お金や夢などとする。

もし、それを失くしたとき、どんな状況になるだろうか

悲しみ、怒り、苦しみ、不安と恐怖に苛まれるだろう。

多くの人は失くした時に初めてその存在の大切さに気がつく。

今日一日だけしか存在しないと想い、それを大事にする。

それは感謝の心がないと思えない。

大切なものは明日になればなくなると想い、今日を暮らす。

夜に寝て、朝に目が覚めて、また今日が来る。

同じように大切なものは今日だけしか存在しないと想う。

そしてそれを感謝する。

それを毎日に想い、毎月、毎年に想い生きる。

そうすれば、大切なものがなくなることはない。

2004年11月29日 「相手を見て商いする」

佐々木さんからウェブドゥでは無理な値引きが当たり前と聞く。商売にも心理学がある。家の近くの衣料品店「しまむら」がある。シャツの値札に黒字で定価2900円書いてある。それを判るように消して赤字で980円と大きく書いてある。目を引く、手にとって見る。こんなに安いのか。なんか得したように感じる。しかし、店は損してまで商売をしない。980円で十分に採算できる。自分が売り手に回って物を考えると原則を理解できる。

以前にも話したがルイ・ヴィトンは高価な商品だが値引きしない。値引きしないでも良く売れている。ルイ・ヴィトンは価格以上に消費者に付加価値を感じさせる。商売の原則は目の肥えた人や金を持っている人に物売ることを考える必要がある。要するに価値の判る人・会社と商売することである。逆に価値のある商品とか人材を生むことは良い商売や儲けることである。

利益のメカニズムが完成させると余裕が生まれる。余裕は会社や社員を豊かにしていく。私は今、当社の価値を理解していただける会社にシフトしていく計画を実行している。商売に100%はないけれども、未来を作るためには不可欠なことである。

2004年11月30日 「NEET」

NEETが話題になっている。NEETとはNot in Employment, Education or Trainingの略で、「職に就いていず、学校機関に所属もしていず、そして就労に向けた具体的な動きをしていない」若者を指す。現在、日本にはNEETに分類される若者の数は68万人いると言われる。

私はNEETを「人間の屑」と訳す。人間の屑は学校や社会が作ったのではない。親が製造したのである。親に責任がある。親は反省すべきだ。原因の多くが幼少時期からの甘やかした躰にあると考える。また、小中学校の教員もPTAの目が怖くて、本来の教育の目的を達成できなくなっているようだ。親は自分の子供に生きることの厳しさを教えることが出来なくなったのは高度成長期の中流家庭意識と核家族に起因する。学級崩壊、家庭崩壊の抜本的問題は母親の過度な愛情と父親の子供に対する無関心さである。

子供の学力低下は親の学力低下や道徳心の低下に比例している。最近、両親を殺害した2件の痛ましい事件はその象徴ではないのか。

義務教育の改革も必要だが、親の教育を始めるべきであると考えます。また、教員にもある程度の裁量を与えることも必要である。学校は哲学とか道徳の必要性を強く認識して、もっと道徳教育時間を増やす必要がある。

当社の教育は「心の教育」と「技術教育」の両方を同時に行っている。永い年月で人格を高めることができると確信している。真の教育の目的は他人を思いやる事の出来る人間を育てることに他ならない。

4月13日（月） 「インターシップ」

昨年の夏、知合いの教授の依頼で東京大学大学院の学生の一人をインターシップとて初めて受け入れた。インターシップとは、学生が一定期間企業等の中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行える制度で、夏・春の長期休暇中に行く事がほとんどで、就職活動に先駆けて就業体験を積むことで、就職活動本番でのミスマッチを防ぐ目的もある。

私はインターシップを良く理解していないので、当社の研究開発課の社員とある研究テーマを一緒にすることで学生を受け入れた。私はインターシップの思い出になるようなことはないかと思案した。そして、インターシップの初日の暑い夕方、事務所のベランダに社員が買って来た「溝型の雨戸樋」を使って、「そうめん流し」の風情ある簡易装置(?)を作った。また、何日の前から事務所でそうめんの茹であげた方と美味しい食べ方を料理とは縁遠い独身男性社員と研究した。当日そうめんを沢山作り、そして事務所にいる社員も集めて行って、氷で冷やしたそうめんをペットボトルに入れた水で雨戸樋に流し彼を歓迎した。大変喜んでくれた。その後の1ヶ月間、一生懸命に研究テーマに励んだようだ。このインターシップで当社社員が教えることを学んだと良い思い出になったと話した。普段考えない事業目的を持った集団の何気ないふれあいこそが学生にとっての就業体験ではなかろうかと思う。

2004年12月1日 「日本一の企業を目指す」

陰陽なく、仕事に励むべし。天は常にその人間の言動を見ている。だから、結果の良し悪しよりそのプロセスが大切である。

私は日本一の企業を作るために創業した。私には影も日向もない。「有るがまま」に生きている。無理をしないで自然体で生きることに努めている。私は営業を好まないと言っている。だからと言って営業しないとは言っていない。そこに本質が隠されている。社員が一生懸命に仕事に打ち込んで、よく遣っていただいているとお客さんから感謝される。御社とはもっと取引をしたい。これが私の考えている営業である。だから、お客様の作業場所で一番にならなければならない。どんな仕事でも一番になれば、その人はもっと頑張りたいと思うようになる。また人に優しくなる。仕事の内容ではなく、仕事をする本質を見つけて欲しい。それが当社の社員である資格になる。その為に情報処理の資格に裏づけされた能力や実力が必要なのである。何人でも3年以内に基本情報の資格を取得しない者は在職する権利はない。資格に裏づけされた実力こそが日本一になるための必要条件である。

私はこの業界で日本一の企業にする。これが私の夢の一つである。

2004年12月2日 「我慢にも限界がある」

松下幸之助は松下幸之助の一日一話の中の「忍ぶべきを忍ぶ」で誠心誠意いいものをすすめたけれども用いてくれないというので憤慨し、これは相手が暗

愚だからしょうがないとやけになって、結局うちこわしになってしまうということが、ままあるようです。しかし、そういうことでは、私は大したことはできないだろうと思います。用いてくれなければ時をまとう。これだけ説明してもだめだというのは、これは時節がきていないのだ。そう考えてじっと忍耐していくところから、無言のうちに知らしめる、というような強い大きな誠意が生まれてきます。そしてそのうちに、相手がみずから悟ることにもなって、それが非常に成功に結びつくことにもなりましょう。

と書いています。

このような考え方は正論であると思います。しかし、当社は誠心誠意の仕事をしていますが、東証1部に上場しているのもかかわらずブラック企業と呼ばれている相手がそれを感じない場合、当社として耐えるのが正しいのでしょうか。当社社員が永い年月の中でその客の無知を悟らせることができましようか。そこまで忍耐する価値があるのでしょうか。正に決断の時に、このようなテーマを読むと考え込んでしまいます。幸之助の言わんとすることは理解できます。しかし、理不尽な取引先の要求に我慢の限界があります。今の売上がなくなることは経営者にとって非常に辛いですが、当社の理念と社員のことを考えると誠実のある会社取引を変えながら這い上がっていくしかありません。当社の考え方に理解を示す企業と関係を強化し、成長していきたいと思います。

4月14日 「納税は美德と思え」

企業が商売できるには最低「資金」、「社員」、「技術」、「商品」、「取引先」と「仕入先」が必要になってきます。商売する以前に国家、社会が平和でなければなりません。道路が整備させ、電気、ガス、水道、通信網も整備されてないといけません。無学な人では商売できませんから義務教育を含む学校教育が充実してなければなりません。さらに社員や家族が健康でないと仕事できませんから国民の医療や福祉が充実していなければなりません。これらの最低条件を満たすためには国家が豊でないとなりません。これには国民が多くの税金を納める必要があります。豊かな安心安全な国家社会であるためには国民が付加価値の高い仕事（勤労）をしながら、喜んで多額を納税しなければなりません。日本国憲法にある国民の納税の義務です。

これを実現するためには社会の中心的役割を果たす企業が健全に利益を出し続けなければなりません。企業が支払う税金には毎月支払う社会保険（健康保険、厚生年金保険、介護保険）があります。年に数回に分けて納める税金には消費税、法人税、都道府県民税、労働保険（労働者災害補償保険、雇用保険）、固定資産税があります。社員が収める毎月の税金には所得税、住民税、社会保険、雇用保険などがあります。これだけ納税しても国家財政は大赤字です。国や自治体の歳出の問題や公務員数に問題があるとの指摘があります。国民は所得以上に国の借金により豊かな生活をしていることになり、権利は主張するが義務を怠る国民が増えていることも財政赤字の原因になっています。

企業経営は大変難しい。経営者は公明正大でなければなりません。社員は素直で勤労と

勤勉でなければなりません。そのような状態でないと、企業は倒産し、社員は失業します。これは社員個人や社員の家族に大きな影響を与えます。

私は創業以来、納税を美德として実践してきました。そのお陰で創業時の売上高が5400万円から今年3月末の売上高が10億2千万円になり、この9年間、黒字決算を継続することができ、遅延なく納税を行ってきました。これからも健全に儲けて、きちんと納税していきたいと考えています。

2004年12月3日 「広い視野で考える」

日本の企業の中には目先の利益を確保するために狭い視野で物事を考え行動して、その結果、企業や社員並びに社会に多大なる迷惑を掛けている。最近でも三井物産のディーゼル排ガス浄化装置（DPF）の虚偽データでの製品販売やUFIJの組織ぐるみの不良債権隠しが起きている。企業としての倫理が崩壊している。自分さえ良ければとの想いが根底にある。国の機関でも同様な問題が発生している。それは広い視野で物事を考えないからであろう。

社員一人一人が広い視野で物事を考え、常に問題意識を持ち、そして自己中心的な思考を捨て、他人の事を考える。そうすると社会により必要な企業に成長していく。

2004年12月4日 「事あるたびに」

生きてると毎日いろんな出来事が起こります。テレビを見ているといろんな事件が発生していることを知ることが出来ます。それは私達が生きているからです。良いことも悪いことも起きるのです。大事なものは、その出来事や事件に対してどのようなに対処するかを知ることです。いろんな出来事が発生するほうがより生きていると思ったほうが幸せです。それによって成長できるからです。一人で生きるより皆で生きたほうが楽しいでしょう。皆で悩んだほうがより解決策が浮かびます。一人で笑うより皆で笑うほうがより愉快です。

4月15日（水）「野生動物による被害対策」

昨日、ウェブドウの役員会のために、新潟県長岡市に行った。生憎の雨で満開の桜を見ることができなかった。

昨年の12月頃から、1万匹のカラスがJR長岡駅の構内を住家にするようになり、追い払う有用な手段がなく、長岡駅や近くの住民が困っている。カラスの嫌いな鳴き声を拡声器で流すと飛び立つが何回も繰り返すと逃げなくなる。カラスは賢い鳥である。コンサートなどで演出用に用いられるようなレーザーをカラスに当てると逃げるが駅構内の極所に照射するには制御が必要である。実験を繰り返しながら開発する必要があり、すぐには設置できないようだ。

近年、野生鳥獣による農林水産業被害は、過疎化、高齢化の進展等による耕作放棄地の

増加や集落コミュニティの崩壊等に伴い、全国的に中山間地域を中心に深刻化しており、平成16年度の農作物被害金額は約206億円に上っている。特にイノシシ、シカ、サルによる被害が深刻化している。(農林水産省生産局平成18年3月版の野生鳥獣被害防止マニュアルによる)

大学との共同で総務省のSCOPEに野生動物から農産物を守る対策について応募し、採択された。レーザーや直進性のあるスピーカーを利用して里に下りた野生動物を追い払う研究がこれから始まる。

2004年12月5日 「親代わり」

「親の心、子知らず」、「親孝行したいときに親はなし」、「子をもって知る親の恩」など親の恩を日頃は感じないものである。親を亡くしたときに、初めて親の恩や愛情を判と言うものである。親は子供から恩を返してもなうために子供を育てているのではない、親の使命である。しかし、子供は親に感謝しなければならない。常に両親に孝行しようと思わなければならない。そのような気持ちが素直な性格を作る。良い人間になる。成功者に共通した特性である。私は入社面接で親を大切にしないと必ず言っている。親以上に思っている人はいないからである。

以前に勤めていた会社は社員よりお金に興味を持つ社長であった。それが原因で私は退職し、創業したのである。私は社員を育てることに力を入れている。私は社会や両親から社員を預かっていると心している。だから、私の考えに賛同するなら、入社しなさい。他社が良いと思うなら、他社に行きなさい。社員がどのような状況でも立派に生きていく能力だけは身につけさせようと思っている。なぜなら、それが人間として経営者としての社会への恩返しだからである。「親から勉強しなさい」と耳にタコができるほど聞いた言葉でしょう。「私が資格を取りなさい」と言うのも親と同じ気持ちと意味が込められていることを理解して欲しいと思います。

2004年12月6日 「適正な賃金」

賃金体系については永遠の課題であると思います。適正な賃金はないと思います。価値ある企業、価値ある商品、価値ある従業員は市場原理によって決まるのです。企業は売上高、利益などで市場から価値の判定をされます。商品は人気、販売個数、利益率により価値が決まります。従業員は企業における能力、実力、貢献度、将来性等の要素で価値が決まります。賃金はすべてバランスのとれた市場原理によって自然と決まっていくものであることを理解しておく必要があります。

4月16日 「上村松園」

昨日、尼門跡寺院の世界と芸大コレクション展を見に行くために、事務所の近くの東京藝術大学の門を潜った。

尼門跡は皇族・公家の高貴な女性によって営まれた独自の品格を持つ寺院で、七、八世紀の時代から始まり、今でも古都の京都・奈良に13ヶ寺が残っている世界に誇れる文化遺産である。尼僧たちの生活と信仰に焦点を当て展示紹介されている。展示品を見ながら優雅で素晴らしいものでばかりであるが私には形式を重んじる窮屈な生活であったろうなと感じた。

芸大コレクション展は現在アートの逸品を展示していた。原田直次郎の「靴屋の親爺」は親爺の気迫を感じ、素晴らしい。上村松園の「草紙洗小町」は優雅で繊細かつ品位があり、よい。複写版であるが上村松園の「五月」を事務所に飾っている。私は彼女の作品が好きである。売店で松園の「序の舞(重要文化財)」を複写した葉を買った。

松園の随筆「画学校時代」の中にこんな記述があることを思い出した。

「あの頃の不自由を想うと、今の人は幸せです。文展でも院展でも非常に人物画が多くなっているので、参考に困りませんが、当時はこのようにしなければ、人物画の参考は見られなかったものでした。

そのような不自由な中から、人物画で一派をたてていった私の修行は並々のものではありませんでした。

自由に参考の手にはいる現代の人たちは幸福であると同時に、そう言った苦勞をせずにはすむことは楽修行になるので、うんと警戒しなくてはならぬと思うのであります。」

私はこの節が妙に心に残っています。経営のイロハも知らないで、試行錯誤しながら、今日まで来たからです。

2004年12月7日 「人事」

幸之助は「打てば響く組織作りを進める」と不況克服の条項の中にあります。

外部環境の変化に対応する敏感な対応は、良い情報も悪い情報も社員からどんどん上がってくるお互いの意思が縦横に通いあう風通しのよい組織であってこそ可能となる。

企業には理念とか目標とかがあります。その企業の目的に沿った組織作りを持って、企業が成長繁栄しなければなりません。人事も企業目標に沿った方向に行かなければなりません。人事はその目的を最短で達するために必要なのです。当社では最短で目標を達する手段として資格に基盤された能力・実力をベースに人事を行っていますが能力・実力の評価だけでは良い人事とはいけません。情熱を持って人に接し、情熱を持って仕事できる人間を評価するのが良い人事であると考えます。

2004年12月8日 「蟪蛄(カマキリ)」

蟪蛄(学名をマンティスと言い、「占う者」を意味します。)は卵のうと呼ばれる卵の入った袋を杉などの枝葉に産み付けます。茶褐色をした卵のうから越冬し春になり、約200の小さな占う者達が生まれてきます。冬、卵のうが雪面よりも低い位置に埋もれてしまうと、雪による窒息や卵が冷やされたり、重さで枝から抜け落ちたりと、卵が死滅してし

まいます。逆に、あまり雪面より高い位置にあると、鳥達に発見されてしまい餌食となってしまう。螻蛄は雪の深さを占って、その雪面の高さギリギリの位置に卵のうを生まなければなりません。螻蛄は高感度のセンサーで自然の中にある音聞き分け、気象を予測しているのです。(酒井興喜夫工学博士：ウェブドゥを構成する酒井無線の社長)

螻蛄は生命の継承を行うため、高感度のセンサーで上位者である大自然に相談しているのです。今年は何の辺に卵のうを産み付ければよいですか？大自然は螻蛄に適切な位置を教えます。

ホウレンソウという言葉聞いたことがあると思います。報告・連絡・相談を意味します。良い仕事ができる言葉です。報告しない、連絡しない、相談しないで自分勝手な判断で行動した時、多くは失敗します。

仕事で重要なことの一つにホウレンソウがあることを忘れないようにしてもらいたい。

4月20日(月) 「神前結婚」

18日(土) 東京駅10:33分発のひかり509号の喫煙可能な16号車両に売店で買った雑誌と自販機で買ったコーヒー缶を持って乗車した。まばらの乗客を見ながら、窓側の席に座った。どうも、新幹線は乗り過ごしたときの悲劇を考えると安心できない。高速移動するから疲労する。そんなことで新幹線での移動は寛げない。煙草を吸いながら、集中しないまま雑誌をばらばらと捲る。事務所や家で飲むブラックコーヒーはうまいが外出したときのブラックコーヒーは苦いと感じる。なぜだろう。車窓から見える風景も一人では楽しめない。そんな風に退屈な時間を過ごした。12:20に設定した携帯電話のアラーム音が鳴った。名古屋駅に到着した。13号車に乗っていた社員と合流し、一緒に熱田駅の電車に乗った。雑談していると熱田駅を通過していた。乗り過ごした。次の駅で下車し、反対側のホームに行き、ちょっとしたら下り電車が来たので乗った。

熱田駅で下車し、社員の結婚式のために熱田神宮に向かって歩いた。商店街を過ぎ、道路の反対側に新緑の葉を蓄えた大きな木々が見えた。神宮の砂利を踏みしめながら、境内の静寂の中に靴の沈みに合わせる砂利の摩擦音が心地よい。神宮会館に入り、挙式は何処であるか係員に尋ねた。係員は本宮の隣にある祈禱殿まで案内してくれたと言った。熱田神社の境内は樹齢千年を越える楠をはじめとする6万坪あり、三種の神器の一つ草薙神剣(くさなぎのみつるぎ)の御鎮座に創始し、伊勢神宮に次ぎ格式のある神社であるようだ。

祈禱殿に案内させ、親族は祈禱殿内にいり、来賓は外の席で結婚式を見る。紋付袴の新郎と白無垢に角隠しの新婦が現れ、祈禱殿内の首座に座り、結婚式が始まった。笙(しょう)・箏(ひちりき)・龍笛(りゅうてき)を持つ白装束の職員が雅楽を吹き始める。古の音と匂いを感じる。斎主のお祓いから、斎主が何か祝いの言葉を神前に言っているが分からない。巫女が杯に酒を入れ、新郎と新婦が三三九度の儀式と通りに酒を飲む。それから指輪を交換する。その後、巫女が舞を踊る。私が古い日本人なのであろうか、ホテルでの教会結婚式よりこのような神前結婚式が印象に残る素晴らしい儀式と思えた。

この神前結婚式の様子を用意している祝辞の前に話そうとあれこれと考えながら、披露宴会場に向かった。主賓の挨拶はその披露宴を盛り上げる重要なスピーチである。いつも緊張する。

「春爛漫、身体を通り過ぎる風がすがすがしい季節に1000年前の平安時代の絵巻の中に入って、儀式を見ているようで、新郎と新婦が三三九度を交わし、白髪まで仲むつまじくすることを神聖に誓ったこと、大変お目出度く、お祝い申し上げます」と始めた。いつものように生命の継承の話をして、祝辞を終わった。挨拶を終え、美味しい酒と料理を味わった。親戚の子供達がビール瓶を持って、円卓の来賓にお酌して廻る光景は微笑ましく、また、披露宴は大変盛り上がった。そして宴は終わり、ほろ酔い気分で社員と一緒に熱田神社の境内を後にした。

2004年12月9日 「学問のすすめ」

幸之助の言葉は日本の栄華を極めた頃の時代の事であると衰退している日本の現状に嘆く人が多いのではなかろうか。

経済協力開発機構(OECD)は7日、加盟国を中心とする41か国・地域の15歳男女計約27万6000人を対象に実施した2003年国際学習到達度調査(略称PIISA)の結果を世界同時発表した。

2000年に続く2度目の調査で、日本は前回8位の「読解力」が加盟国平均に相当する14位に落ち込み、1位だった「数学的応用力」も6位に順位を下げた。文部科学省は「我が国の学力は世界トップレベルとは言えない」と初の認識を示した。

これに対して中山文部科学大臣は「もっと勉強しないと駄目だということを徹底しないといけない」と指摘。「日本が停滞している間に近隣諸国が追い上げてきて取り残されてしまう。東洋の老小国になってしまってはわれわれの子や孫たちに申し訳ない」と述べ、学力向上策に徹底的に取り組む姿勢を示した。

日本の国際競争力が弱まり、企業が衰退しているのも「能力や実力が低下している社会人が増えているからであり、経営者は社員に、妻は夫に、彼女は彼氏に対して「もっと勉強しないと駄目だということを徹底しないといけない」との姿勢を示して欲しいものである。そうすると経営者、妻、彼女も勉強しなくてはならなくなる。こうなると、何も言わなくても子供達は自ら勉強するようになる。

当社が「米百俵」の精神で徹底して学問する会社であることは社員が十二分に理解していると思う。

福沢諭吉の言葉を紹介する。

人は生れながらにして貴賤貧富の別なし。ただ学問を勤めて物事をよく知る者は貴人となり富人となり、無学なる者は貧人となり下人となるなり。

2004年12月10日 「身分相応」

身分相応という言葉がありますが、自分の収入の範囲で生活することを心がければ、豊かな暮らしができます。身分不相応な生活をすると、災難が降りかかってきます。見栄を張る生活や贅沢な暮らしをする人の中に身分の高い人や歴史に名を残した人物はいません。質素な儉約した生活をすべきです。

十分な資金で起業する人に成功者はいないと言われていました。なぜか、考えてください。知恵を持たず、創意工夫しないからです。会社を退職した2000年2月の預金残高は50万円でした。住宅ローンがありましたので貯金はできず、家族4人にしては小額な残高でした。資本金1000万円を工面するのは大変な苦勞と知恵がありました。創業当時の苦しさが節約と儉約することを体に染み付きました。決して見栄や浪費をしません。

会社の設備はなるべく安いものを買います。交際費は極力使いません。タクシーは決して使いません。しかし、社員や社会に役に立つお金をケチルことはしません。パソコン、書籍代や教育費には十分にお金を使います。きちんと納税します。能力のある人には満足できる賃金を支払っています。ウェブドゥに1000万円を出資したり、WINには1000万円の会費を納めたり、無担保無保証でWINに1000万円を貸付いたり、一般中小企業ではとてもできないことを行っています。このようなことができるのも節約・儉約した経営を実践しているからです。

このような考え方をしていると良い結果が訪れると思います。今週、WINの会からソフトウェア開発の仕事を受注したいので協力してほしいとの要請がありました。東京大学の人脈を使えるのですから、将来、超優良企業からの仕事を無尽蔵に掘り起こせる可能性があります。過分な期待は失望の度合いも大きいので少し期待したいですね。

4月21日 「理解するまで待とう」

長い年月付き合っている会社のある役員が当社について侮辱する発言をしたことに温厚な佐々木さんは心の中で激怒したそう。こんな会社のため、土日もなく夜もなく仕事していたことに悲しさと空しさを感じたそうで、翌日、一日中娘とサーカーしてストレスを発散したそうです。

多くの人は自分のことしか考えない。他人の立場はわからない。自分がその立場になり、同じことをできるか考えればすぐに答えがでるのにそれも考えられない。欲の深さに比例して見えない。無能者や不徳する者の子孫は社会の隅に追いやられる。これが摂理。

理解してくれないからといって、感情的になっても何も問題解決できない。すべての人が理解していないならば、去ればよい。少しでもいれば、頑張ればよい。

当社のほとんどの社員が佐々木さんを尊敬し支持していることを忘れてはならない。

2004年12月11日 「ある社長の開き直り」

全ての人の指紋は異なる。全ての人の血管パターンは異なる。全ての人の虹彩は異なる。全ての人の育った環境は異なる。多くの人間は異なった個性を持っていることは明らかで

ある。自分の特徴を良く知って、個性を伸ばすことが良い結果に繋がる。

あるソフト会社が経営に行き詰って、社長は開き直り、事務所を本郷からサンシャインビルに引っ越した。また、ジョンレノンが持っていた同じ車種のベンツを購入した。その話を聞いた社長連中は気が狂ったのかと噂していたらしい。しかし、その後、サンシャインビルに引っ越した後、不思議に沢山仕事を受注し、経営を立て直した。本郷にいるときは銀行からの融資は厳しかったが、サンシャインビルに引越したら、銀行が簡単に融資してくれるようになったとその経営者は私に話した。この話は参考になった。しかし、彼の話を聞いて、経営危機の会社が同じことをしたら、良い結果が生まれるでしょうか？多分NOでしょう。無理な引越しやベンツの購入で、彼の潜在する持ち味を引き出したことで、成功に繋がったのです。

2004年12月12日 「営業マンの心得」

商売人や営業マンの多くは社交辞令が多く、熱意なく、工夫なくお客様と接しているようです。私は最初から取引してもらいたいと思うのではなく、私の情熱とか夢を語るようにしています。まず、自分を売り込むのです。だから、自ずと熱意が伝わるのです。

沢山のソフト会社があるのですから、お客様から言えば、何処のソフトハウスでも良い訳です。既存の取引会社でも良いわけです。重要なことは、何か魅力があるのか、「試しに一度使うか？」そのように思わせることが大切です。その為には日々、情熱を持って人に接することをしなければなりません。お客様に自分の熱意を伝えるのは本番と思わなければなりません。これが自分や会社の繁栄に繋がると思わなければなりません。だから、営業する人には知識、自信、魅力、信念を持つ必要があります。

4月22日 「アリとキリギリス」

2009年度の実質国内総生産（GDP）成長率が3・0%減前後のマイナス成長なるとのニュースが流れた。政府の経済見通しとしては過去最悪である。追加景気対策でもマイナス成長は避けられないようだ。景気回復は予想以上に遠くなってきている。

過去の経済成長を見ると、1956年～73年の経済成長の平均が9・1%、74年～90年が3・8%、91年～07年が1・3%と段々と経済成長は鈍化している。91年以降の財政赤字の膨張を考えると、政府の景気の下支えなしの経済成長はマイナスになっているのではないか？禁断の麻薬療法に依存した産業構造になっていないのか？

夏の間、アリたちは冬の間を食料をためるために働き続け、キリギリスは歌を歌って遊び、働かない。やがて冬が来て、キリギリスは食べ物を探すが見つからず、アリたちに頼んで、食べ物を分けてもらおうとするが、「夏には歌ってたんだから、冬には踊ったらどうだ？」と断られるというイソップ寓話の「アリとキリギリス」の話である。

日本人はこの戦後最悪の不況に目先の生活をしているキリギリスから非常事態に備える勤勉勤勞なアリに変身しなければならない。

2004年12月13日 「背水の陣」

背水の陣（漢の名將韓信が趙（ちよう）の軍と戦ったときに、わざと川を背にして陣をとり、味方に退却できないという決死の覚悟をさせ、敵を破ったという故事から）一步もひけないような絶体絶命の状況の中で、全力を尽くすことのとえ。）で事に当たることの出来る人は大成する。言い訳する人は常に逃げ道を用意している。うまくいかない原因は自分ではなく、周りの環境か他人に起因すると自分に納得するのである。

順調などときには、誰でも期待する結果が得られる。しかし、困難な局面や危機的状況になると、退路を絶って向かう人と逃げ道を用意している人では結果が違ってくる。腹の括っている人は信用できる。企業経営の本質はそこにある。腹の括っている人を見つけ出すことも経営者の資質である。大きくなった企業を見れば、すぐに分る。

「命を賭けて生きる」ことを教えることはできない、苦難を乗り越えることにより実感できるようになる。それが真のリーダとなりえる。当社に命を賭けて生きることを感じるものの出来る人材が群生することを期待したい。自分の為に生きる人は命を賭けて生きる人にはなれないことを補足する。

2004年12月14日 「日々完全燃焼」

星占い、手相占いなどを好む女性が多いと聞く。慰みでもよい。将来に良いことがあることを信じたい。褒めてもらいたい心理が働くのであろうか。未来を知りたい人が未来を予測できないから古代から占い師は身分が高い地位にいた。科学が発達した現代では占いを信じる人は少ないが縋りたいと思う人は多い。なぜだろう。

当社の業績は順調のように見られるがとんでもない錯覚である。私は「一寸先は闇」の地獄のような経験をしてきた。太陽が西から昇っても、順調な成長をしているとは考えられない。日々、必死に生きている。気がつけば、社員数や売上高が多少増えているに過ぎない。命ある限り、生物の掟である繁栄する方向に向かう姿勢は変えない。未来を心配しなくても、必ず明日は来る。

統計的確率で、私の余命は30年ある。簡単な未来であるがその程度しか分らない。交通事故、病気や地震などの自然災害で突然死ぬかもしれない。そのように考えると日々完全燃焼した生き方になる。

4月23日 「通勤電車」

朝起きると明日が今日に変わっている

薄い明るい朝が日の出を待っている

田舎の朝は雄鶏の鳴き声で始まる

都会の朝は電車の通る摩擦音で始まる

通勤電車の車両の中には私を誰も知らない。

私も彼らを誰も知らない。

「おはようございます」のない空間

空いている席に座り、首をゆっくりと左右に動かす

あごにハンカチを挟んで本を読んでいる女子高生

IPODで音楽を聴きながら携帯電話でメールを送っている女子高生

スポーツ新聞を真剣に読んでいるカジュアルな中年男性

携帯電話のメールを読んでいる太ったおばさん

腕を組んで寝ているサラリーマン

左の手の薬指に指輪をはめ無表情に日経新聞を読んでいるスラックス姿の30代女性

通勤電車はそれぞれの人生を運んでいる

みんな下を向いている

みんな下を向いている

上を向こうよ

上を向こうよ

と心で叫ぶが届かない

駅のホームに下りる

まるで巣穴から地上に向かうアリの集団のように淡々と歩いている

ミュージカルやろうよ

ステップして歩こうよ

ミュージカルやろうよ

ステップして歩こうよ

と心で叫ぶが届かない

太陽の眩しい光だけが地下鉄の出口に私を待っていた

2004年12月15日 「正々堂々」

「スポーツ精神に則り、正々堂々勝負することを誓う」と開会式で選手代表が宣誓します。しかし、アテネオリンピックでもドーピングなどの不正行為でメダルを獲得した選手がいました。公正な検査でメダルを剥奪され、選手生命を絶たれ、国民から信用を失くしました。人間失格の烙印を生涯負うのです。発覚した場合の代償を考えれば、正々堂々の勝負が良いに決まっているのになぜと首を傾げます。

企業でも同じです。雪印乳業、武富士、三菱自動車、西武鉄道、UFJ、三井物産などの日本を代表する歴史のある会社が社会ルールを無視した事業を行ったことがあります。しかし、それが発覚した場合の社会的な制裁は非常に厳しいものでした。最悪の場合、倒産・吸収されるケースもありました。なぜ、このようなことが後を絶たないのでしょうか。上場会社の宿命である売上高、利益目標達成の経営方針に対して、社員は知恵を使わないで、安易な方法で目標を達成しようとしたのです。非常に浅はかな非常識な行動です。小

さな嘘はやがて大きな嘘になり、その嘘を隠すことに懸命になり、仕事の目的や社会的使命を忘れるのです。発覚した場合の個人及び会社に対する社会的制裁は大きいものになります。その影響は計り知れません。

正々堂々とした企業間競争をするために、従業員に対する倫理・道徳教育は非常に大切です。当社は経営理念にも社員の行動指針を書いています。また、技術や人格を向上する教育を徹底しているつもりです。これは当社社員が社会から必要とされる人間になることや尊敬される人格になることを企業の使命を考えているからに他ありません。

2004年12月17日 「遅刻が大嫌い」

当社の〇〇係長は遅刻が大嫌いです。遅刻する人を許せないと思っています。寝坊という言葉が彼の辞書にはありません。彼の寝室には強力な目覚まし時計が3個用意されています。どんな状況でも目を覚ます覚悟の現れでしょう。

取引先で作業するようになった当初、取引先の社員や外注の多くは決められた時間以降に出社していました。彼はそのことを大変不満に思っていました。他社に対して文句を言えない。しかし、歳月が流れ、〇〇係長の想いが通じたのか知れませんが取引先の社員がどんどん遅刻しなくなりました。今では早く出社するのが当たり前になったようです。当社A君やB君も早く出社しています。

遅刻をしない信念を持った言動は正に志士といえるでしょう。無言の行動で他人の行動を改善させることは大変なことです。当社から言えば取引先はお客様です。そのお客様に対して彼の行動が認められたこととなります。素晴らしいことです。

志を持ち、それを成し遂げる。嬉しいですね。エピソードが沢山ある会社にしたいですね。

4月24日 「なにげない朝の風景」

朝の日差しの射るリビング

テレビから流れるアナウンサーの声

台所の棚が開まる音

まな板を叩く包丁の音

鍋に鍋蓋が重なる音

子供達の弁当を作りながら動き回る嫁さんのスリッパの音

眠り眼で歩いてくる子供の足音

テーブルの椅子を引き座る音

牛乳の入っているグラスをテーブルに置く音

パンをゆっくり噛む音、牛乳がのどを通る音

何気ない毎日の朝の風景

振返ればこれって幸せだったと

裏山から聞こえてくる小鳥のさえずり

鶏の鳴き声

犬の鳴き声

雨戸の開ける音

かまどの薪が燃えはじける音

母親が味噌汁を味見している音

配膳で食器が合わさる音

遠い昔の故郷の記憶

幸せだったんだなー

2004年12月18日 「先輩の言葉に耳を貸せ」

親と子や中高年と若者の断絶があっても良いと思います。感情と知性を持った人間が数千年以上このような問題に直面していると思うからです。先祖や親を敬うことのできない子供が幸せな暮らしをできることはないと言えます。年配に礼儀をしない若者が成功できるはずもなく、それらの若者はその日暮らしの貧乏な生活を送ることは間違いありません。気付いた時には手遅れです。人間の歴史はこのような形で繰り返しています。

私は資格を取りなさいとアドバイスします。それを忠実に守り、コツコツ努力した人はお客様からの評価、己に対する自信、報酬、未来の展望等が良くなっていきます。逆に耳にタコができた。努力したくないと言った人はお客様の評価は悪い、自信がない、賃金に不満を持つ、将来に不安を感じます。そして、狡賢い発想しか浮かばないようになります。そのような状況で、役職を下げたら、私の降格は労基法に抵触すると哀れな行動を取ります。

人生経験を積んだ人達は物事の分別を良く理解しています。だから、若者達に自身の経験に基づくアドバイスをします。アドバイスを煩いと思う子供や若者は、好きに生きて、生き地獄を見ればよいのです。若い頃、両親や先輩諸兄の話が聞けなかった人が上野公園でダンボールの家で生活しています。彼らは誰も身寄りがいない孤独な人生で終焉するのです。

利害関係を越えた所に孔子の「仁」、仏陀の「慈悲」、キリストの「愛」なるものが存在します。親や先輩諸君は自信と夢を持って生き、そして子供や若者は目上を敬い・礼儀を持って生きて欲しいものです。

2004年12月19日 「人生を線表化する」

「全てのものを最後の最後まで使う」という経営理念を持つ中小企業の社長がいるそうです。92歳の社長の下、30人の社員の多くは60歳を超えているようです。年商は20億円くらいで不況しらずのようです。人や物にも寿命があります。だからこそ大切にする必要があります。

システム開発には線表があり、工程単位の線表に分け、作業の進捗管理をするのです。多くのシステムは開発の完了日を設定して、開発を行います。みんな当然の事と思っています。

自分自身の人生の線表を作っている人は皆無に近いと思います。なぜでしょう。未来のことは良く分らないと思っているからです。しかし、時間が過ぎれば、未来は現在になり、それを過ぎれば過去になります。現在から過去を振り返ることは可能です。過去、現在、未来は連続した $Y=F(X)$ の曲線上にあることは確かなことです。過去、現在の状況からある程度未来を予測することは可能です。個人個人には固有の定数が存在します。この固有定数を大きくすることを考える必要があります。では、どのようにすれば、定数を大きくすることが可能でしょうか。それは人生を線表化することです。いろんな項目について目標を設定し、計画・実行することです。人生もPLC(Plan Do Check)が必要です。寿命があることを感じます。日々の過ごし方が変わってきます。良い人生を送ることができます。

全世界33カ国語で1,500万部以上が出版された大ベストセラー「7つの習慣：スティーブン・R・コヴィー著、川西茂翻訳」を読んでください。私の話していることが理解できると確信します。

4月25日 「婚活」

学生が仕事を見つけることを就職活動といい、略して「就活」という。近頃、婚活という言葉が耳にした。結婚活動らしい。嘘だろうと疑いたくなる。昔は「お見合い」があり、会社では上司が部下に世話を焼き、職場結婚も多く、近所では世話好きなおじさん、おばさんが縁談話を持ってきた。それで、自分では恋人を見つけれない人も何とか結婚できた。しかし、核家族になり、世話を焼くことが面倒になって、会社内ではセクハラ、パワーハラなど人間関係が冷たくなり、職場結婚も少なくなった。それで結婚できない人が増えている。

女性も結婚しなくても食べていけるようになり、好条件の結婚願望があり、結婚支援サービスに登録して自分の被検索性を高める、好条件の結婚相手を検索／紹介してもらう、コネを活用して伴侶にしたい人物を模索するなどの活動を行う者が増加している。これを結婚活動もしくは婚活という。

婚姻の統計を調べてみた。昭和50年：941,628組(87.3%) 昭和60年：735,850組(83.4%)、平成7年：791,888組(81.6%)、平成17年：714,265組(74.7%)である。

昭和47年をピークに婚姻数は減少傾向にあり、再婚件数は昭和54年以降増加傾向にある。婚姻の年齢では昭和50年のとき男性：27.8歳、女性：25.2歳、20年後の平成7年では男性：29.8歳、女性：27.3歳 平成17年では男性：31.7歳、女性：29.4歳と婚姻の晩婚の傾向にある。また、婚姻の夫婦間の年の差が昭和50年

のときは2.6歳、平成7年のときは2.5歳、平成17年のときは1.8歳であり、夫婦間の年齢差は縮まっている。

結婚相談所などで条件面から配偶者を決まるような方法はいかなものかと思う。街でばったりと心がときめく異性に会ったら、「好きです」と言える勇気と積極性が望まれる。それが家庭を明るくし、仕事も前向きで、近所の付き合いも広がる。草食系男子が増えているといわれているが責任感のある肉食系男子が良い。

注1) () 内は夫婦とも初婚の割合

出典：厚生労働省 平成18年度「婚姻に関する統計」の概況

2004年12月21日 「個人情報保護法」

悪い情報は伝達し易い。人は良い話より悪い話が好きだ。マスメディアの多様化やインターネットに代表される通信網の普及と低廉により、情報が瞬時に発信・受信されるようになった。悪い話は瞬時に多くの人が知ることになる。

企業経営を取り巻く環境は厳しさを増している。雇用保険UP、社会保険料UP、税制の抜本見直しによる増税、デフレや国際競争による価格の下落等の中、企業はどのように知恵を絞って収益を上げなければならない。さらに、企業に対する倫理が厳しくなっている。悪いことはすぐに社会の隅々に伝わり、企業はすぐに経営の悪化に繋がる。個人情報保護法が新年度から施行され、道徳心のない社員が個人情報を持ち出した場合、その企業は社会から確実に抹殺される。恐ろしい時代に突入する。しかし、企業だけがその責任を受けるのではなく、その個人及び親族も厳しい社会的責任を問われることは間違いない。そのような観点でいえば、企業及び個人は法律を守ること常に考えなければならない。それが企業及び個人の繁栄する必要条件になる。

当社は創業以来信念を持って法令遵守や企業倫理を貫いてきた。私の思想は決して新しいことではないが多様化・複雑化・高度化した時代が法令遵守をさらに必要としているのではなかろうかと思う。日々の正しい言動は崩壊しない信用を長期に亘り築ける。

2004年12月22日 「割れ窓理論」

小さなことに積み重ねが大きな成果を生む。私は小さな出来事に拘りを持つようにしている。小さな出来事は大きな事を暗示していると常に考えている。小さな良いことが続くと大きな良いことが起こる。小さな悪いことが続くと大きな災難が降りかかる。2001年6月に某メーカー殿の作業の多くについて継続を断念したのも、この理由にある。小さな悪いことがぼつぼつと発生していた。次に大きな災難が降りかかるような感じがした。次の仕事の充てがあつた訳ではない。しかし、別の所に仕事を必死で探した。何とか難局を越えることができた。

逆に、創業以来、社員に日報・週報をきちんと書いてもらっている。この小さな繰り返しを5年も続けると社員の文書能力が向上し、作業を計画できる効果がある。また、私か

ら見れば、社員の抱える問題点を早期に発見し、対策を講じることができる。私は小さな事を執念深く続けるようにしている。ここが当社と他社の根本的な違いがある。だから、成長できる。

米ニュージャージー州ルトガーズ大学 ジョージ・ケリング博士の提唱する『割窓理論』は好きである。『割れ窓（割られた窓）』とは、言葉のとおり、建物やビルの窓ガラスが割られて、そのまま放置しておく、外部から、その建物は管理されていないと認識され、割られる窓ガラスが増える。建物やビル全体が荒廃し、それはさらに地域全体が荒れていくという理屈である。つまり、『割れ窓理論』は、たった1枚の割れ窓の放置から起きる荒廃の始まりで、街は荒れ、無秩序状態となって犯罪は多発し、地域共同体を作っていた住民は街から逃げ出し、街が崩壊するというのだ。たった1枚の割れたガラス窓を対処することで、犯罪傾向は大きく変わらないのに、安全に対する住民意識が変わるのか。それは、窓ガラスを割り、ビルの壁に落書きをするなど軽微な事犯でも、それらも見逃さないとという警察があるからだという。警察は殺人や強盗など重大犯罪だけでなく、日本でいう軽犯罪法違反の事犯もどんどん取り締まるという姿勢を見せた。それにより、住民は安心感を自ら作り出すという効果があるともいえるようだ。

これを実践的に採用したのが、ニューヨーク市のR・ジュリアーニ市長だった。ジュリアーニ市長は、1994（平成6）年1月、NY市警察本部長にブラットン氏を任命。『割れ窓理論』を採用してニューヨークの街角から“割れた窓”の一掃を図った。このために警察官5000人を採用し、徹底した徒歩パトロールと軽微な犯罪の取り締まりに入った。同時にNY迷惑防止条例の積極的な運用も図った。ニューヨークのイメージは変わり、落書きで有名なNY地下鉄は、いまではキレイな車体で、安全な乗り物としてニューヨーク市民の足になっている。

毎日、10分間勉強する。年間で60時間50分になる。塵も積もれば山となる。この気持ちが大切である。

4月26日 「ネット社会の光と影」

インターネットは大変便利である。瞬時に全世界に情報の発信が可能で、またあらゆる情報を取得できる。瞬時に正確にメールが送信されたり受信されたりする。これを称してユビキタス社会という。パソコンや携帯電話なしでは生活できない。素晴らしいことである。

逆に便利は不愉快なことやリスクも多くなっている。迷惑メールやコンピュータウイルスで仕事にも大きな影響がでる。私は一日200件以上の英語で書かれた意味不明の迷惑メールやアダルト系の迷惑メールを受信する。大変不愉快である。必要なメールを見逃すことや削除してしまうこともある。

他にもyahooなどでは無料でメールを作れる。身元不明なメールアドレスから身分を明らかにしないで傲慢なメールが来ることがある。最近、こんなメールを受けた。

From: takuramakann0@yahoo.co.jp
To: information@kogasoftware.com
Sent: Thursday, April 23, 2009 2:02 PM
Subject: 古賀さんへ

古賀さんに、少し厳しいことを申し上げます。

口だけが先走らないようにしなさい。

口だけ理想を語っても、結局それが自分の権力欲につながるのであれば、社員はあなたを心から信頼できません。

いくら表面上素晴らしいことだけ言ってもだれも古賀さんを信じません。

本当に古賀さんの理想と行動が一致しているのか、日々見ている人はいます。

私のブログを見てメールしたのであるか？身元不明なメールアドレスから身分を明らかにしないで、世の中の何を一つ知らないのに支離滅裂なことを偉そうに書いてくる。このようなことがネット社会の陰の部分である。こんなメール無視すればよいという人もいるが「割れ窓理論」から考えるとキチンと小さな段階で対応しないと凶に乗ってくる。不愉快を少なくするためには毅然と対応することである。

迷惑メール法が強化されているがやはり一人一人が道徳心を持ってインターネットを利用してもらいたいものである。

2004年12月23日 「無縁坂」

長崎県長崎市出身のさだまさしが好きだ。

無縁坂

母がまだ若い頃 僕の手を引いて
この坂を登る度 いつも溜め息をついた
溜め息つけばそれですむ 後ろだけは見ちゃだめと
笑ってた白い手は とてもやわらかだった

運がいいとか悪いとか 人は時々口にするけど
そういう事って確かにあると あなたを見ててそう思う
しのぶしのぶ無縁坂 噛みしめるような
ささやかな僕の母の人生

この歌を聴くと悲しい。私の母親は80歳になるが10年くらい前から海の見える病院のベッドの上で寝ている。自分自身が誰かも知らない、人間であることも知らない植物人間として眠っているだけである。幼いことから母親の苦勞している顔は覚えている。必死

に生きていた。子供達が大きくなり、家から巣立ったときから、高血圧が酷くなり、段々と生き甲斐もなくなり、病気になっていった。かわいそうな人生と思わざるを得ない。しかし、植物人間状態になってから10年も生きていることは奇跡に近い。生きることに執着し、必死に生きていたのである。

そのようなことを考えると私は決して自分に負けることはできない。私は物事を最後の最後まで諦めない気持ちになる。私はどのような困難な局面でも超えられる予感がする。このような気持ちになるのも無意識にも関わらず最後まで生きようとしている母親の命に対する執着心を感じるからであろう。

2004年12月24日 「稼働率」

時計の発展により、時間が重要な単位になった。Time is money. である。生産性とか品質は時間を意識したものである。技術や能力も時間に対しての尺度である。豊かな人生を送るためには時間を意識した生き方をする必要はある。

機械やコンピュータには故障率とか稼働率が非常に重要である。処理能力が高くても稼働率が低ければ、商売には向いていない。だから、高品質を守るために定期メンテナンスする。人間も同様に能力が高くても休みの多い者や病気の多い人は生産性が低い。心身の健康を定期メンテナンスする必要がある。能力と稼働率が高い人を実力のある人と呼ぶ。

4月27日 「春の絨毯」

冬を過ごした田んぼに緑の絨毯を敷き詰めたように蓮華草が春と共に姿を現す。

白紫の小さな花びらが柔らかい緑の葉の間から覗いている。

その絨毯に土足で走り回る。

走り回るのに飽きたら、澄み切った青い空を向いて大の字に寝る。

蓮華草の葉の冷ややかな冷たさが心地よい。

グルグルと身体を回転させると着ているものが緑色に染まる。

その絨毯に耳を当てると大地からいろんな音が交じり合って聞こえてくる。

絨毯も生きているが大地も生きているんだ。

田んぼと田んぼの間のちろちろと流れる小川の水は手が切れるほど冷たい。

土手に腹ばいになって流れる水に揺れている泥鰌の髭を見ながら、掴もうとするがすばやく逃げる。

もう服は泥だらけ。

何も考えないで一生懸命に遊んでいた。

遠い昔の子供の頃の春はのどかで楽しかった。

2004年12月25日 「危機症候群」

大学を卒業してから、今まで仕事で忙しいと思ったことはない。他人から見ると忙しく

見えるらしいが、自分自身は結構暇なのである。だから、いろんなことを考えて挑戦しようとしている。私の生き方を危機症候群と命名した人がいる。火中の栗を好んで拾いに行くのが好きに見えるようだ。私は決してそのようなことはない。非常に論理的な行動であると自分では思っている。

私は煎餅を食べ、テレビの前で大笑いしている母親が子供に勉強しなさいということ許せない。

2004年12月26日 「貧乏性」

松下幸之助9歳の明治35年頃から5年間、小学校を中退し、単身、親元を離れて大阪の商家に丁稚奉公に出た。幸之助はくじけることなく、子守から店の掃除・手伝いにいたる多くの経験を糧に、商売人としての心得を幼い心に植えつけていった。

幸之助はこのような環境の中でも自分をしっかりと見つめていたことが見える。現代の子供達は不自由なく大学卒業まで両親が手取り足取り面倒を見ているが本当に幸せなのかと思うことがある。今の若者にうどん一杯に楽しみを感じるだろうか。このような視点で物事を感じる人間を育てるにはどのようなことをしたら良いか。

私は立ち食いでそばやうどんを食べるのが好きだ。美味しいとは思わないが安い・早いからだ。心の奥から貧乏が染み付いているようだ。貧乏性は見栄を張らないから結構自然に生きられる。人間の本質を見るのに都合がよい。

4月28日 「裁判員制度」

国民参加の裁判員制度が来月の21日から始まる。裁判員制度とは我々国民が社会的重大な刑事事件について法廷に参加して、被告人が有罪かどうか、有罪ならどれくらいの刑にするかを裁判官と一緒に決める制度である。これは日本の裁判が専門家だけで行われていて、判決までの時間が長いなど批判を受け、国民参加の開かれた裁判を目指すことにある。

アメリカ、イギリス、カナダ、ロシアは陪審制度で裁判官（1名）から独立して有罪か無罪かを無作為で選ばれた12名の陪審員（18歳以上）で決める。イタリア、フランス、ドイツは参審制で職業裁判官と参審員で合議して罪責と量刑を判断する。日本の裁判員制度は後者に似ているようだ。

裁判員は国民の義務であり、よほどのことがない限り辞退できない。企業もその裁判に参加する間、仕事に支障がでる。裁判員には日当と交通費が支給されるようだ。

(1) 裁判に呼ばれる日時はいつ分かる？

原則として、裁判当日の6週間前までにお知らせされます。審理が長くかかりそうな事件の場合は、8週間程度前のお知らせとなります

(2) 裁判員に選ばれたら会社を休んでもいい？

裁判員の仕事は『公の職務』です。労働基準法第7条で規定されているとおり、会社

は公の職務（裁判員の職務）を執行するために必要な時間を与えなければなりません。そして、裁判員となったことで会社を休んだことを理由に解雇などの不利益取扱をすることは、裁判員法第100条で禁止されています。

（3）裁判員休暇は有給か？無給か？

会社は、裁判員の職務のために必要な時間を与える義務はありますが、休暇制度を設けること、休暇を有給とすることについて義務付けられていません。従って、裁判員休暇制度を定めること、有給か、無給かは、会社の判断に委ねられています。

（4）裁判員としての職務を行った日を年次有給休暇にするのはOK？

有給の裁判員休暇制度がない会社などで、裁判員職務につく日を本人の申出により年次有給休暇として取得することは問題ありません。

（5）裁判員としての職務についての証明は？

申し出があれば、裁判所が証明書を発行してくれます。裁判員候補者として出頭したときは、呼出状中の出頭証明書欄に証明スタンプを押印してもらえます。裁判員としての職務については、証明書を発行してもらえます。そして、この書類を裁判員の職務についての証明として会社に提出させ、休暇を認めることは差し支えありません。

（6）日当はもらえるんですか？

選任手続きや審理・評議の時間にに応じて決められます。

●裁判員候補者・選任予定裁判員・・・1日当たり 8,000円以内

●裁判員・補充裁判員・・・1日当たり10,000円以内

（裁判員の参加する刑事裁判に関する規則7条）

裁判員候補者が選任手続きのため裁判所へ出頭し、裁判員に選任されず、午前中で終わった場合は半額の4000円程度が支払われるようです。

（7）交通費は出るのですか？

原則として、最も経済的な（安価な）経路・交通手段で計算した額が旅費として支給されます。

●鉄道・船舶・航空・・・その区間の運賃

●上記以外（バス・徒歩・自転車）・・・距離に応じて1kmあたり37円

（裁判員の参加する刑事裁判に関する規則6条）

実際にかかった交通費が支払われるわけではありません。

（8）日当を受け取ったら、確定申告は必要？

日当は、職務にあたっての損害の一部を補償するものです。

従って、日当は給与所得及び一時所得のいずれにもあたらず、「雑所得」として扱われます。

つまり、裁判所は源泉徴収を行いません。

年末調整をされた方で、日当等の雑所得など各種所得金額（給与所得と退職所得を除く）が20万円を超える場合は、所得税の確定申告を行う必要があります。

（引用（1）～（8）：税理士／司法書士／社会保険労務士 小澤事務所のHP）

当社では年次休暇は20日もあり、また裁判所から日当が支給されるために裁判員のための特別な休暇は考えない。

2004年12月27日 「投げやらない」

資格を取れる人と資格を取れない人の違いは何かと考えます。資格を取れない人は「俺は頭が悪い」と投げやりになったり、計画を立てて勉強しない人です。点数の上がない人は理解している箇所と理解していない箇所を明確にしないで勉強しています。資格を取る目的は何かを考え、どうしても資格を取りたいんだと思うところに、光明が見えます。諦めるのも人生、諦めないのも人生、それは自分自身の問題です。

経営者の悩みは多岐に亘っています。課題をどのように克服して行くか知恵を絞ります。一つの問題が解決して安堵しているとまた新たな問題が発生します。又悩みます。その繰り返しに耐えられるのは情熱と精神力だけです。

2004年12月28日 「武士道」

日本の武士には平安時代以降「切腹」なる責任を取る習慣があった。「上に責任を及ぼさない」「家督の相続だけは確保する」と云った目的に使われた。そこには潔しの精神があったのではないのかと思う。『武士道』を英文で著した新渡戸稲造は「武士道とは勇猛果敢なフェア・プレーの精神である」と規定している。すなわち、武士道とは不正や卑劣な行動を禁じ、死をも恐れない正義を遂行する精神であるとする。

このような日本独特の精神文化があったが、戦後の欧米の自由主義を誤解した日本人は狡賢い生き方を身に付けた。本音と建前を美味しく使い分けるようになった。今さえ良ければそれでよい。このような考えが甘えになっているのではないのか。自分に厳しく生きることは、価値のある生き方である。常に自分の言動には責任を持つように心がけ、日々の過ごし方を再点検する必要があると考える。

4月29日 「昭和」

今日は昭和の日であり、昭和天皇の誕生日である。昭和64年1月7日、出張先の北海道札幌市の喫茶店で朝食を食べていたとき「天皇崩御」のニュースがテレビから流れた。昭和最後の日を札幌で過ごしたことになる。兎に角、すべてのテレビ局が天皇崩御のニュースを流していたことを記憶している。翌日の1月8日から年号が平成になった。

そのころ、NTTの網オペレーションの仕事で札幌のホテルに泊まっていた。東京と北海道を往復する日々で寝る暇もなく進捗報告は飛行機の中で書いていた。首都圏では人材不足だったのか知らないが、地方の都市で大きなプロジェクトが幾つも動いていた。しかし、地方には力のあるシステムエンジニアが不足しているので、東京から地方に出張してトラブルジョブを解決しなければならなかった。札幌の冬の深夜の作業は辛かった。ビルの暖房は定刻で止まり、ワークステーションやプリンターから出る熱で温まり、新聞紙を

身体に巻いて仮眠したが、寒くて震えが止まらなかった。この過酷な仕事は平成2年まで続いた。このプロジェクトが終了したら、バブル景気も終わり、長い辛い平成不況が始まった。

今年は平成21年である。昭和は随分と遠くなった。

2004年12月29日 「理念」

日本国憲法の前文は敗戦の反省から平和国家の誓いになっている。戦争を行わないと否定形であり、物足りない感がある。憲法改正が検討されているようだが、民族や文化を基盤にした日本国の進む理想の道しるべになるような前文を作ってもらいたいと思う。

当社理念には3段階で社員の進む方向性を規程している。人間とは、企業とは、経営とはである。これが憲法前文に該当する。高い理想になっている。これに近づけるように日々努力しなければならない。私は創業以来理念に恥じる言動はしていないつもりである。社員も理想を実現できるような生き方をしてもらいたい。全ての事象に対して、感謝の念が自然と湧き出てくると信じている。

2005年1月3日 「今も特別ではない」

創業時、多数の企業のホームページを見た。特に社長の挨拶に良く読んだ記憶がある。どのような考えで経営しているか参考にしたいからであった。

松下電器産業、トヨタ自動車、ホンダ技研、リコー、キャノン等のホームページで社長の挨拶を読んだら常に夢を与える言葉しかない。

逆に「不確実な時代」「不透明な時代」「厳しい経営環境」「急激な変化」などの言葉を使う社長挨拶がある。

①・・・この間に蓄積した技術はその実績と共に着実なる進展を遂げて来ましたが、近年の時代の変化と共により高度なニーズに対応すべく、日々たゆまない研究と開発に努めております。しかし世の中の変化の流れは益々加速し、価値観の変化あるいは多様化は一層の拡大を見せるものと思われまます・・・。

②・・・今、世界は先行きの不透明感から、経済的にも、政治的にもまさに激動の時代に突入しています。

こうした環境の変化に的確に対応し、お客様に満足していただける品質を提供することが、あらゆる企業の最大の課題といえるでしょう・・・。

③・・・現在の経済構造不況の中、運輸業界は、軽油価格の高騰、高速道路料金・軽油引取税等の放置などにより、大変厳しい中にいますが・・・。

④日本経済はますます深刻化しており、混沌としています。

そんな中、国境を超えたボーダレスな市場環境が形成されつつあり、また、衣・食・住それぞれの角度から人間本来の生活スタイルを改めて見直す動きが見られます・・・。

⑤・・・日本の雇用形態は多様化し、働く人の意識も企業戦略も変化し、あらゆるもの

が変わり行くなかで『皆様の満足を追及すること』が私たちの使命と考えています。

⑥変化の速い今の時代、毎日会社の経営を把握して今日決めたことは 明日すぐ実行する。そして一日ごとに反省を繰り返す。そうでないと進むべき方向がつかめない。 不言実行をモットーに成長していきたい。

⑦経済社会の構造変革や情報技術の急速な拡がりなど、いま社会はめまぐるしいスピードで変化しつつあります。

⑧・・・。フエジーの時代と呼ばれる時代に、企業として何をなし得るかは、企業に携わる者の常に大きな命題ですが、不透明な時代だからこそ積み重ねた歴史に立脚し、将来を見通したビジョンこそが厳しく求められなければなりません・・・。

この社長挨拶を2005年1月3日に読んでも1995年1月3日、1985年1月3日、2015年1月3日に読んでも違和感がないように思います。何時かいても、いつ読んでも同じであることはその時点は常に不確実であると思うは口実に過ぎません。自分は努力しているが外部環境が厳しいので結果が出ない。俺の責任ではないと逃げ口を用意しているに過ぎません。今も特別ではないのです。

4月30日 「耳鳴り」

昨年の真夏のある日、事務所ですらと話をしていた。私は蝉の鳴き声が聞こえているが聞こえないかと尋ねた。社員は皆聞こえないと返した。おかしいなと想いながらそれ以上深く考えなかった。3日前の朝、目が覚めたら、蝉の声が聞こえてくる。これは蝉の声ではないと確信した。これが耳鳴りというものか。

起きてから、ネットで耳鳴りを調べた。耳鳴り（みみなり）とは、実際には音がしていないのにも関わらず、何かが聞こえるように感じる現象。一般に耳鳴は、難聴とともに出現することが多いとされている。このありふれた病態は、軽い不快感から、不眠、ときにうつ状態など、大小のストレスを引き起こしうる。耳鳴りは本人にしか聞こえない自覚的耳鳴と、外部から聴取可能な他覚的耳鳴に分類される。急に生じた耳鳴が急性感音難聴の唯一の自覚症状であることもあり、早めに一度は耳鼻咽喉科受診をするべきであると考えられる。

「静かさや岩にしみいる蝉の声」（芭蕉）と子供の頃から蝉と蝉の声は好きだったから、蝉の声のような耳鳴りに不快感を覚えない。しかし、問題がありそうだから耳鼻咽喉科で検査したほうがよいなと思った。

2005年1月4日 「第二の遺伝子」

遺伝子は生き残るための知恵袋である。言葉は人間が持った第二の遺伝子と呼ばれている。ホモサピエンスは多様な音声を作ることの出来る喉を持ち、言葉を使って寒冷気候の中で生き残った。言葉は知恵を産み、文化、科学を発達させることができた。言葉で人を感動させたり、元気にさせたり、悲しくさせたり、怒らせたりすることができる。これは

人間だけが持つ特殊な能力である。しかし、人類が概念を持ち、私が誰であるかの主体を認識できるのか。このことは現在の科学を持っても解明されていない。

生きていることは自分が自分であることを発見することである。自分が他人ではない。この主体が大切なのである。私はなぜ会社を作ったのか。私はなぜこのような事業を行っているのか。私はどこへ行こうとしているのか。このようなことを良く考えている。だから、明確な目的や目標を作っている。

「はじめに言葉あり」は余りにも難題な哲学であり、短時間では持論を纏められない。別の機会に書きたいと思う。

2005年1月5日 「先見の明」

後漢書楊彪伝に「先見の明」と記載してある。「先見の明」とは物事が起こる以前に見抜く見識。将来の事を見通す賢さ。三国志の劉備は先見の明があったようだ。いち早く正確に未来を予測できるものが勝者になる。当たり前のことである。しかし、この当たり前のことを多くの人は理解できない。未来は確実に来る。過去、現在から未来はある程度予測できる。未来は過去と現在までに作られた微分可能な関数上に存在することは間違いない。だから、一発逆転などを夢見る人間は愚かである。

温故知新は名言である。非常に科学的な言葉と思う。私は歴史や古人の思想を読むことが好きである。先人達の足跡の中に未来が見えることがあるからだ。当社の5年間の成長から近未来の成長を予測することは案外容易い。太陽が朝に日が昇ると同じようなものである。

基本は正しい姿勢で正しく見て、正しく分析し、正しく判断し、正しく言動する。また、万物を信じることである。人間は夢、希望、目標を持たないと正しい見識を持ってない。だから、夢、希望、目標を持つ必要がある。出来るだけ高いレベルに設定する。実現したいと思う心と信念があれば、困難は克服できる。私はそのように思っている。

5月1日 「最善を尽くす」

これまで2年間NPO WINと生体センサーを用いた人間センシングの研究開発に取り組んできた。某医科大学の健康センターに装置を持ち込みデモしたり、老人ホームに装置を持ち込み医者や看護婦に説明したり、大学の主催する講演会で研究発表もしたりと地道な活動を行ってきた。纏まった資金がないと研究開発は大きく先進しないのが悩みである。

経済産業省から4月9日付で「平成21年度「地域見守り支援システム実証事業」の公募があった。内容は本事業では複数年を予定し、限られた医療・介護等の資源を効果的に活用しながら効率的に医療・介護サービス等を提供していくための方策のひとつとして、情報システム・ITツールを活用した遠隔からの医療支援、介護支援等を中心とした「地域見守り支援システム」の構築等を行う。具体的には、特定の異なる複数地域において、

地域として見守る必要のある在宅療養者等（高齢者や慢性疾患患者等）を対象に、実証事業を実施する。このような目的の実証事業であった。

この仕様書を見ながら、生体センサーを用いた提案書を書くことに決めた。しかし、この事業の最低費用が1年6億円と書かれていた。当社では落札するのは非常に困難であった。そこで大手企業に打診することになり、とりあえず数社に電話やメールで打診した。話を聞いてもらうことができたので、打合せを行い、詳細を説明した。しかし、1社は時間もなく体制ができないと辞退された。1社は入札参加資格がないと辞退された。最後の1社は各部署に当たってみるからしばらく待ってくれとの返事であった。

兎に角、提案書の作成に取り掛かった。多くの社員に検討させ、提案書の作成は進んだ。4月22日に取引銀行に来てもらい、6億円を融資できないかと打診した。4月30日までに回答できるかは保証できないが関係部署に相談してくれると約束した。28日、銀行から融資するともしないとも確約できないと連絡があった。

社員は28日から48時間一睡もしないで最後の集中レビューを行った。30日8:30に川崎南武線のある駅の駅前の喫茶店で某企業の本部長と会った。各部署から経験がないのでできないと返事があり、辞退すると回答があった。事務所に戻り、債務保証できるか公的機関に問い合わせしたが無理との返事があった。当社が落札しても無理しなくても良い金額を書いて、締め切り12:00ちょっと前に経済産業省に提案書を提出した。

100ページから成る提案は素晴らしい出来栄であったが資金面の確保ができなかったことが残念であった。しかし最善を尽くしたことが今後にかされるだろう。

2005年1月6日 「感謝の気持ち」

美人の美を分解すると羊+大である。太った羊は美味しい。漢字を分解すると本質を見ることができる。徳は直+心である。「直」とは「正しく見る」意味である。「直心」というのは、「神様の根元の働き」を言う。神様の御心を行ずるのが「徳」である。

徳の本質は神様への感謝であり、「ありがとうございます」を唱える事であるようだ。素直な心とは万物に感謝する気持ちを持つことになる。今日一日生きていることに感謝する。美味しい食事を頂き、感謝感謝。難問を頂いて、感謝。試練を頂き、感謝感謝。悟りの境地が見えてきた！？

2005年1月7日「熱意」

「一念、岩をも徹す」ということわざがあります。これは、岩を虎だと思い、集中して放った矢が岩を突き通したという故事に由来するようです。熱意は相手の心を貫通できると思うのです。なぜかと云えば、相手に通じる目的と熱意を持っているからです。能力とか知識は補うことができるが熱意は補うことができません。日々の前向きな生き方が熱意を育てるのです。

5月2日 「案内状」

鳥取2区選出の衆議院議員赤沢りょうせいの秘書から毎年「赤沢りょうせい君の励ます会」の案内がくる。今年も案内状が届いた。毎年、憲政記念館に行き、政治の空気を吸いに行く。赤沢議員とはどんな関係があるかという彼の秘書が当社の元社員である。河上君というが彼は東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻修了後、鳥取県庁職員と採用された。その後、志を持って、上京したがその夢に届かず、当社に入社した。彼は明るくて積極的で大変好感を持っていたが、故郷で両親の面倒を見る必要があり、残念であるが地元の鳥取に戻るようになった。親父が地元で地方議員をしていることもあって、衆議院議員の秘書になったようだ。年に一度、河上君の元気な様子を見ることも楽しみにしている。テレビで良く見かける代議士が集まる中、憲政記念館の玄関で案内係りをしている彼とは10秒くらいしか話せないが笑顔で頑張っている姿に何かこみ上げるものがある。直向きに必死で生きているときの人間は耀いている。嬉しい。今年も彼の笑顔を見ることを楽しみにしている。

2005年1月8日 「祈る」

宝くじを買って、当選するように祈り、宝くじを神棚に置く人がいる。ご利益はあるだろうか？馬券を買って、当たりますようにと神仏に祈る人がいる。ご利益はあるだろうか？日頃は神仏を信じないのに、自分の都合の良いときだけ、神仏を信じる。このような墮落した人間にはならないように注意すべきである。

一生懸命に努力しているとき、神仏に成功を祈願すれば、成就する確率は高くなる。なぜだろう。合唱して、神仏に祈る行為の中に心が静まり、精神が落ち着く。冷静になり、集中力が高まる。また、驕りが無くなる。神仏に祈ることは自分を謙虚な姿勢にすることであり、また心に希望や勇気が湧いてくる。

私は剣豪宮本武蔵が好きだ。「我、神仏を尊んで神仏に恃（たの）まず」は武蔵の言葉である。私にはその境地に至ることが遠い。

2005年1月9日 「雨季と乾季」

雨季（景気が良い状態）は大地が潤い、植物が茂り、動物が繁殖し、力強く育つ時期です。乾季（不景気な状態）は大地に潤いが無くなり、植物が少なくなり、動物は餌をとることが厳しくなります。厳しい環境に耐えなければなりません。耐えたものが生き残ります。そのために知恵を持っています。よって、乾季に耐えられる能力が必要です。企業活動も同様で好景気では知恵を使わなくても商品が売れ、仕事が沢山あります。しかし、不景気になれば、商品が売れなくなり、仕事が少なくなり、世の中が暗くなります。

私は不景気に強い会社を作っています。どんな状況でも安定した仕事を取れるように考えて、経営戦略を立てています。銀行は晴れているときには傘を貸します。しかし、雨の時には傘を貸しません。だから、私は黒字を続けているのです。潤沢な融資を受けられま

す。優良上場会社は安定した仕事を持っています。良い仕事をしていれば、安定して仕事をいただけます。また、企業は冒険しないとマンネリ化して衰退していきます。冒険することで新しい発見が出来ます。夢が膨らみます。だから、新しい事業を作っていく必要があります。夢の実現ほど感動するものはありません。

5月7日 「ナルコレプシー」

5月1日（金）は朝4時に起床した。昼間は仕事した。明日は休みと夜から社員と麻雀した。翌朝までは平気だが、それ以上になると睡魔が襲ってくる。麻雀牌を指に挿んだと思ったら寝ている。「寝ちゃだめ」の声で目が覚める。顔を叩いたり、顔を洗ったりと睡魔を撃退しようと努力するが脳とまぶたは我慢できない。また、しばらくして「寝ちゃだめ」の声で起きる。なぜ、我慢しても続けるのかと思うであろうが一人抜けると麻雀にならない。四人の意思で終了しなければならず、一人だけ止めるは協調性に欠ける。なぜか知らないが麻雀には徹夜が似合う。

「朝だ！徹夜だ！」とペンネームを付けた雀聖が戦後の日本にいた。若い頃からギャンブルが何でもやった。「麻雀放浪記」で有名になった阿佐田哲也がその人である。彼は、何処でも寝る「居眠り病」であるナルコレプシー（narcolepsy）という原因不明の難病に侵され、入眠時もしくは起床時の金縛り・幻覚・幻聴に終生悩まされる。想像を絶する病気である。

しかし、彼は麻雀を含むギャンブルでは一流、大衆文学では「阿佐田哲也」として売れっ子作家、純文学でも「色川武大」として直木賞を含む文学賞を総なめにしている。崩れそうで崩れない、孤独でなさそうで大いに孤独、幸せそうで大いに不幸な人生、だからこそ常人にはできないことを簡単に出来るのだろう。

そんな阿佐田哲也は人生9勝6敗が言いといっている。欲深くてもだめ、欲がなさ過ぎてもだめ。うーん？！

2005年1月10日 「仕事」

仕事とは生計を立てる手段として従事する事柄。職業。職業とは生計を維持するために、人が日常従事する仕事。アルバイトとは本業や学業のかたわら、収入を得るための仕事をする。フリーターとは定職につかないで、アルバイトをやりながら気ままに生活しようとする人。遊びとは1 遊ぶこと。「一に興じる」2 酒色にふけったり、賭け事をしたりすること。遊興。「一で身を持ち崩す」3 仕事がないこと。仕事ができなくてひまなこと。

仕事とは生計を立てられる事柄である。アルバイトやフリーターは生計を立てられないので、遊びと定義されることになる。仕事に従事できないことは生計を立てる能力がないことになる。憲法で職業選択の自由は保障されているが、仕事を選択できることは選択できる能力が必要となる。

ところが、大正12年の日本の人口は5596万人、昭和20年には7214万人、昭和40年に9920万人、昭和60年には12104万人、平成13年には12729万人となった。大正12年から今日までに2.3倍の人口増加になった。

昭和23年頃の朝日新聞の記事、1965年前後で人口が約8700万人でピークに達し、それ以後は減少しつづけると推定されている。そして昭和100年（西暦2025年）には、人口が5000万人になると予想している。日本の適正人口は5000万人なら理想の圖も作れる。2005年では高齢者率は19.5%、2050年では32.3%で国民の3人に1人が65歳以上となる。世界人口を考えると、1950年に25億人、1970年に36.1億、1980年に44.1億人、2001年に61億人となった。2050年には93億人に達すると予測されている。この現象を人口爆発で云われている。

日本人は人間の夢である健康と長寿を手に入れた。しかし、幸せになったのであろうか。適正人口と云われる5000万人であれば、若者も老人も豊かな生活を享受できると思われるが。人口が飽和状況になった現在、過去に作成した言葉が正しいか疑問になる。

定職に就けない人がアルバイトをする現在社会、言葉の意味を改めて考える必要がある。

2005年1月15日 「老化を防ぐ」

青春とは《五行説で青は春の色であるところから》1 夢や希望に満ち活力のみなざる若い時代を、人生の春にたとえたもの。と辞書にある。

『五行説』というのは、夏の国の聖王、禹（う）がつくったといわれ、禹（う、紀元前2070年頃の人）は中国古代の伝説的な帝で、夏王朝の創始者。名は、文命（ぶんめい）、大禹、夏禹、戎禹ともいい、姓は（じ）、夏王朝創始後、氏を夏后とした。今から4000年前に「青春」という言葉があったとは驚きです。夢や希望に満ち活力のみなざることを青春である。

老化とは年をとるに従って、肉体的、精神的機能が衰えること。老化とは、加齢とともに各臓器の機能あるいはそれらの統合機能が低下し、身体の恒常性を維持し得なくなる状態である。ヒトは高度の文明社会を持つために、自然淘汰がなく長期に生存する事が可能となり、老化の問題が生じてきた。老化は、プログラム化されているという説から、内分泌機能、免疫機能、神経伝達物質などの調節機能の障害によるという説、老廃物質、体細胞変異、酵素エラーの蓄積によるという説や生体に必要な物質が遊離基や活性酸素により生化学的な損傷を受けて老化現象をもたらすというという説までいろいろある。（愛媛大学医学部病理学第一講座）

老化はその進行を防ぐことができます。若さと活力を保ちながら長生きすることは可能なのです。

多くの著名な研究者は、老化を起さる避けられないものとして捉えるのではなく、病気として捕らえています。つまり、老化は長い間の生活環境が細胞にもたらす害が原因で起

こり、身体を退化させ、ついには身体の機能を破壊する病気なのです。

だから、他の病気と同じように、老化についてもその進行を遅くすることや治すことができると考えているわけです。

多くの科学者達は老化の根源と老化を遅らせる鍵はDNAにあると考えています。最近ではよく耳にする抗酸化ビタミンは、ガン、心臓病、関節炎や神経系の病気を防ぐのに効果があるといわれていますが、それは細胞に害を及ぼす老化を抑えるというメカニズムが働いているからです。だから、ほとんどの病気予防に関する研究は、老化をいかに抑えるかに焦点を絞っているのです。

老化を遅らせるためには、身体のあらゆる生理的な面を防衛する必要があり、科学者達は今、老化を防ぐ事のできる化合物の研究に没頭しています。世界中で200以上もの研究がなされた結果、果物や野菜を多く摂る人は、心臓病や癌になる危険性が約3分の1から2分の1減少する事が解っています。こういった人たちの血液を調べると、ビタミンCやカロチン、ビタミンEや他、抗酸化栄養素（活性酸素の働きを抑える）の含有値が極めて高いのです。その間にも、試験管や顕微鏡、動物実験等の調査で、豊富な野菜食に補助食品を更に追加する事で、老化の進行を遅らせ、寿命を伸ばし、健康な体を保ち易い事が解りました。

1993年9月米国国立科学学会の会報誌の中で、老化研究の大家であるカリフォルニア大学パークレー校のブルース・アムス教授は「酸化物、抗酸化物と老化という退行性疾患」という論文を発表しました。その論拠は細胞の遺伝子DNAへの酸化による害は、年齢と共に蓄積され老化の元凶となり、ガン、心血管系疾患、パーキンソン病や痴呆といった老化による疾患を引き起こす、ということです。

老化は、歳とともに増加したミトコンドリアから生まれるフリーラジカルが原因となって起きます。通常の代謝過程においてミトコンドリアから形成された活性酸素は、先進国における28歳以上の人々の病気や死亡の原因に大きく影響しています。

けれども歳と共に蓄積されるDNAの変異は食物に含まれている抗酸化物を摂取することで防ぐことができ、その結果として老化を遅らせる事ができます。

老化防止対策の基本的食事療法

果物や野菜をふんだんに摂る事。1日に6食分から9食分程

（現実的には困難なので栄養補助食品で補充する）

繊維質豊富な食事を摂る事。100%の麦パンやシリアル、玄米など。繊維質は直腸癌や心臓病を予防する。

脂肪分を抑える事。使用する場合は、キャノーラ油やオリーブ油などの不飽和油を使用すると、癌や心臓病になる危険性が低い。

マルチビタミンのような、身体に必要なミネラルや老化を押さえる栄養素を含む、栄養補助食品を摂取する事。

ビタミンB群（B6、B12、葉酸）

抗酸化ビタミン（A、C、E）

心臓病や癌を特に予防する、ビタミンEを多く摂る事。

骨の強化と血圧を下げる効果のあるカルシウムを多く摂る事。

（閉経前や閉経後の女性は特にこういったミネラルが必要です）

癌や心臓病を予防する効果のあるビタミンCを多く摂る事。

運動

エアロビクスでも、30分位の散歩でも、運動を行うことで、身体をスリムに保ち、心臓病、癌、糖尿病、高血圧といった病気を予防する。（運動を始める前に、専門家に相談する事）

（ケア鍼灸治療院HPによる）

肉体的老化を防止することは食事療法等で可能なようです。精神的老化は防止できるのでしょうか？

過度なストレスは精神的老化を早めるようだ。過度なストレスにならないプラス思考の言動、夢と希望を持ち、食生活に気をつければ、加齢しても老いることなく青春を謳歌できるような気がする。

5月8日 「笑おう」

なぜ人間が笑うのか？アリストテレス以来多くの思想家がこの問いに取り組んでいるが、未だこの謎は解明されていない。

「笑う門には福来る」の諺がある。笑いにはどのような効能があるのか？

- 1) ガンやウイルス殺す働きをするナチュラルキラー細胞の活性が増加し免疫力がアップする。
- 2) 副交感神経の働きが活発になりリラックスした状態になる。
- 3) 痛みを抑え、気分が高揚する作用のあるといわれるエンドルフィンが増加する。
- 4) 脳の活性化して脳内の記憶と関係の深い海馬の血流量が増加しボケ予防になる。
- 5) コレステロールや中性脂肪の値が下がり動脈硬化が予防できる。
- 6) 肩こり、首こりを防ぐなどがある。

一度しかない人生

この時間はもう二度と来ない

だから

どんな時でも

どんな状況でも

誰とでも

みんなで

笑おう

2005年1月19日 「三献の茶」

「長浜城主となった秀吉は、ある日、領内で鷹狩をしていた。その帰途、喉の乾きを覚えて、ある寺に立ち寄って茶を所望した。対応した寺の小姓は、まず最初に大ぶりの茶碗にぬるめの茶を一杯に入れて出した。喉の乾いていた秀吉は、それを一気に飲み干したあと、もう一杯たのんだ。次に小姓は、やや小さめの碗に、やや熱めにした茶をだした。秀吉が試みにもう一杯所望したところ、今度は小ぶりの碗に熱く点てた茶を出した。相手の様子を見て、その欲するものを出す、この心働きに感じいった秀吉は、その小姓を城に連れて帰り家来とした。この小姓が、その後累進し、五奉行の一人、石田三成となったのである。」三献の茶 ～石田三成・豊臣秀吉、出会いのエピソードである。

私の経営は人情を基本している。採用するときは「道」を見つけられないで悩んだり困っている人に自分の歩く道をちょっとだけ教えるようにしている。その後は自分の責任で生きていけるように哲学と技術教育を行っている。生きることを悩むことや将来の生活に不安を覚えるのは寂しく悲しい。社会の為、人の為に生きることができれば、幸せな人生になる。

基本は困っている人を助けたい。これが経営の根底にある。

2005年1月20日 「WIN-WIN」

当社の場合、お客様から苦情を頂くことは非常に少ない。過去に苦情があったのは、居眠りをしている、無口でおとなしいである。過去2名が居眠りをして、顧客から即刻退場を命じられた。会社として言い訳できない。このようなケースは運と縁が逃げていく。会社や他の社員に多大なる迷惑と信用喪失による無形の損害を与えることになる。注意してほしい。

無口でおとなしいは性格もあるが前向きな生き方をすれば改善できると思う。円滑な人間関係を構築することは仕事や日々の暮らしには一番重要である。当社では話し方教室に行かせて、コミュニケーションの基本を訓練されている。

私は顧客に苦情を云う事が多い。私はなぜ苦情を云うかである。作業がトラブルな状況にも関わらず、目先の事しか考えず、抜本的問題にメスを入れないからである。本質を変えれば、品質や生産性がよくなり、お客様がもっと繁栄するのである。

私の提案に耳を傾ける会社は発展する。当社も発展する。良い関係になっていく。縁が深くなっていく。逆の場合、縁を切ることに躊躇いはない。

5月9日 「ホームレスに思う」

事務所の近くのさくら水産ビルの前を、生活に必要な荷物を載せた台車を押しているホームレスの老婆を見かけた。その哀れな姿に人間の尊厳などはない。明日へ繋がる希望もない。いつかひっそりと都会の片隅で誰も知らないうちに息を引き取り、無縁仏の仲間入

りをするだろう。そんな未来が見える。どのような人生を送ってきたか分からないが、目先のみで生活してきたことは間違いないように思える。

聖書に「人はパンにみでは生きていけない」とある。知能ある人間として生きるためには夢を持ち、希望ある未来を信じて、今日を懸命に努力して、人のために生きたいと思わなければならない。

私は沢山の夢が持って生きてきた。そしてその小さな夢を一つ一つ実現してきた。小さな夢を実現するとそれより大きな夢も実現できるような気持ちになる。

明日に希望を持ち、夢を諦めない人生こそが豊かな心を育み、微笑を蓄えた人生を送れると思う。

2005年1月25日 「融通無碍」

融通無碍（ゆうずうむげ）とは考え方や行動にとらわれるところがなく、自由であることで宇宙万物は何一つとして個々別々に孤立した存在ではなく、それぞれが互いに支えあい助けあい溶けあって、一つの調和ある世界を保つ状態に名づけられた言葉である。つまり、他人とうまく調和するために、自らの「我（が）」を殺してでもスムーズな人間関係を行うように努める人こそ、融通性のある人物といえることができるのである。（浄土宗）

歴史上の戦いの中に宗教上の衝突や利害で戦争になっているケースが多い。融通無碍とは一体ないであろうか。米国とイラクの戦争もイスラムとキリストに背景する宗教戦争ともいえる。本来、イラク問題はイスラム諸国で解決すべき問題ではなかったのだろうかと思える。強引なやり方は米国の我に他ならない。

融通無碍とは論語の「礼讓」と同義語である。

論語里仁第四

孔子云う、「礼節と譲り合いの精神を以て国を治めるならば、国を治めるぐらい何の難しいことがあろうか。もし国を治めるのに、礼節も譲り合いの精神も欠いていたら、如何に制度が整っていたとしても、何ともならんものだ」と。「融通無碍」、「礼讓」を心に刻み、実践できるように日々精進したいと思う。

2005年1月26日 「適正価格」

商品の価格が下がることは嬉しいが企業から見ると利幅が薄くなる。過度な値下げは各企業の首を絞めることになり、企業が衰退することになる。その影響で賃金が下がり、企業は社員をリストラする。過度の値下げや過度の企業競争は個人の生活にも社会全体にも悪い影響を与えることも認識する必要がある。

このソフトウェア業界の単金下がっているが実力のある企業とそうでない企業で選別させるようになることが好ましい。しかし、十羽ひとからげの単価の下落はおかしい。実力に見合った条件で取引できるように営業拡大する必要がある。

5月10日 「婚約者の涙」

一昨日の金曜日の夕刻、長野君が彼女を連れて、今年の11月7日に結婚しますと婚約したことの報告に事務所を訪れた。丁度、連休で山形に帰省した社員から貰った直江兼統の「愛」をあしらった日本酒で両名の婚約を祝った。川崎の山にデートしたときに「嫁に来て下さい」とプロポーズしたと照れながら話した。仕事していた社員も呼んで彼らの祝いの宴とした。あつという間に楽しい時間が過ぎた。終電の時間を近づき、長野君との最も印象に残るエピソードのメールを彼女に読んでもらった。そのメールを読み終わった彼女はめがねを外し、目に溜まった涙を感動した心と共にハンカチにしみこませた。そのエピソードを紹介する。

2002年12月24日（火）、クリスマスイブ、その日のことを今でも鮮明に覚えている。都心の町並みがライトアップされ、華やいだ雰囲気にもまれる中、荻窪の静かな住宅街の中の古いアパートの1階の一室で三日三晩高熱で罵られている若者が布団に包まって寝ていた。

私はクリスマスプレゼントと軽食を買って、夕闇の荻窪駅に降りた。寒風が襟元から体内に侵入した。コートのボタンを閉めながら、携帯電話から電話した。「どうだ、調子は？今、荻窪駅前に立っている。アパートはどの辺？」、突然の私からの電話に驚いたような細かい声で彼はアパートまでの目印を説明した。

迷路みたいな路地に迷いながら、アパートにたどり着いた。玄関のドアをノックした。玄関のドアが開いた。精気の抜けた蒼白い顔の若者が苦しうに弱々しく立っていた。その若者は長野君だった。突然の私の訪問に散らかった部屋を片付けたと話した。日頃から整理整頓していることが瞭然に分かった。私の突然の訪問は大変嬉しかったようだった。どんな時でも元気な長野君とは想像つかない風貌であった。12月21日、急に高熱が出て、体が動かなくなった。申し訳ないと長野君は言ったように覚えている。長野君の仕事に対する責任感や執念を知っているから、言葉が詰まった。

なぜ、このような突然の高熱になったかを簡単に説明しよう。2001年2月に某小売業から基幹システムを最新技術で構築する開発依頼の電話があった。要件定義からスタートするので4月から参加して欲しいと4月から曾山君を某小売業の本社に出向させた。歳月は流れ、詳細設計するため、12月からの長野君を含め、数人を参入させた。来年9月から運用することは線表にあったので、かなりの不安のある開発であった。

年明けから、本格的に開発が始まった。長野君の徹夜なしでの勤務がその過酷さを物語っている。

2002年1月 152時間

2002年2月 201時間

2002年3月 209時間

2002年4月 309時間 4月7日（日）と4月13日（土）のみ休み

2002年5月 324時間 5月19日（日）と5月26日（日）のみ休み

2002年6月 225時間
2002年7月 217時間
2002年8月 294時間 8月1日(土)、8月4日、8月17日(土)、8月25日(日)のみ休み
2002年9月 315時間 9月8日(日)のみ休み
2002年10月 343時間 10月13日(日)、10月14日(月)、10月20日(日)、10月27日(日)のみ休み
2002年11月 287時間 11月4日(月)、11月10日(日)、10月20日(日)、11月24日(日)のみ休み
2002年12月 201時間 12月1日(日)、12月15日(日)のみ休み
2002年12月21日から高熱が続いた。年明けまで休んだ。

その当時、大手メーカでも不可能であったJ A V A技術とL i n u xを使用したB t o BのW e bサービスで売上高1000億規模企業の基幹システム開発構築を社員数30名弱の当社1社のみ実現した。この重圧は想像を超えるものであった。この重圧の中で、徹夜を厳禁した勤務体系でこのような稼働を自らの意思で遂行した。この期間、長野君は一度も遅刻をしていない。大変な精神力と能力を持っている人間である。

人間は精神力とか気力の持ち方で驚異的な力を発揮することができる。また、組織も気持ちの持ち方で変わる。

当社の苦難を乗り越えた歴史が社員の中に優しさを植えているのである。決して、表面的な軽い言葉ではないことを理解してもらいたい。また、社員番号の若い社員の苦難を乗り越えた証が彼らの「思いやり」、「暖かさ」や「元気さ」に現れていることを知ってもらいたい。そして、それを継承してもらいたい。当社が今後、どのような苦難に遭遇しても、それに打ち勝つことができることを長野君のエピソードが証明している。

2005年1月28日「当たり前に感謝」

全ての家庭に水道が引かれ、その水道水を飲める国は全世界にどのくらいあるだろうか。日本人は非常に贅沢になり、水道水を安心・安全に飲めることを当たり前に思っている。感謝の念が足りないのである。世の中企業で働いているが、不平不満を言う人がいる。そのような人は個人事業者でも会社でも良いから自分で経営してもらいたいものである。そうしたら、不平不満はいけない。また、失敗したときの悲劇がどれほどのものか分る。多くの人が立場を逆転して考えれば、世の中が良く見えてくる。そうすれば自己中心的な考え方は少なくなると思う。それが他人や社会への思いやりになり、たとえ貧しくとも豊かな社会が実現できると思う。

2005年1月31日「悩みの本質」

私達はいつも悩みを持っています。なぜ、悩むのか。その本質を理解すれば、悩みを解

決できる方法を整頓できるかもしれません。

悩むとは1 決めかねたり解決の方法が見いだせなかったりして、心を痛める。思いわずらう。2 対応や処理がむずかしくて苦しむ。困る。3 からだの痛みなどに苦しむ。また、病気になる。

煩惱とは仏語。身心を悩まし苦しみ、煩わせ、けがす精神作用。貪(とん)・瞋(じん)・痴(ち)は根元的な煩惱として三毒という。染。結。垢(く)。

三毒とは貪・瞋・痴です。『西遊記』の中で玄奘三蔵は猪八戒・孫悟空・沙悟浄の三人の供を連れています。

- 1) 猪八戒は貪・むさぼり。
- 2) 孫悟空は瞋・いかり。
- 3) 沙悟浄は痴・おろかさ を表しています。

食欲とは欲深きこと。自己の欲するものに執着して飽くることを知らないこと。むさぼり。非常に欲の深いこと。五欲とは食欲・色欲・睡眠欲・名誉欲・財欲(金銭欲)を求める欲望

- 1) 瞋恚(しんい)とは自分の心に逆らうものを怒り恨むこと。いかり。
- 2) 愚痴とは是非の区別のつかない愚かさ。言っても仕方のないことを言って嘆くこと。邪見。

欲望の種類

- 1) 生理的欲求(生存本能に基づく欲求)
- 2) 安全への欲求(危険な目に遭いたくない、安心して生きたいという欲求)
- 3) 所属と愛の欲求(仲間になりたい、愛されたいという集団帰属の欲求)
- 4) 承認欲求(仲間認められたいという認知欲求)
- 5) 自己実現の欲求(何かを達成したいという欲求)

欲望を満たされた時、幸福を感じます。逆に満たされないときに不幸を感じます。また、ストレスを感じます。

煩惱は無欲になれば克服できると言われています。無欲になるためには学問(苦行)を積み重ねるしかないと言われています。また、自分の為に生きる人は煩惱が強い、人の為に生きる人は煩惱が弱いと考えられます。

つまり、悩みを解決する方法でストレスがなくなります。人の為になる方法を選択すれば、悩みは少なくなり、ストレスもなくなることとなります。

5月11日 「徳治を以って導く」

X理論・Y理論はアメリカの行動科学者ダグラス・マグレガーが経営管理について名づけたものである。

X理論では、

- (1) 普通の人間は生まれながら仕事が嫌い、できれば仕事はしたくないと思っている。

(2) このため、人間は強制されたり、統制されたり、命令されたり、処罰されると脅されなければ、目標達成のために十分な力を出さない。

などといった人間観が前提となっている。

この人間観にたつと、厳格な監督、金銭刺激、ノルマ（標準作業量）の賦課、規則の多用による管理方式がとられることになる。

Y理論では、

- (1) 仕事をするのは人間の本性であるが、条件しだいで、満足したり嫌悪したりする。
- (2) 人間は自分から進んで身をゆだねた目標には自発的に努力する。
- (3) 献身的に努力するか否かは、達成して得る報酬しだいである。
- (4) 人間は条件しだいで責任を引き受ける。
- (5) 人間は問題解決能力をもっている。
- (6) 人間の能力は組織内で一部しか活用されていない。

などといった人間観が前提となっている。

この人間観にたつた場合は、能力を引き出す指導型の監督、多面的報酬、参加やコミュニケーションを重視する管理方式がとられる。(y a h o o 辞書：森本三男氏執筆)

X理論は「飴と鞭」による経営手法で低次元な人間集団の管理に向いている。Y理論は継続的な管理には無理はある。そこで、マグレガーはZ理論の開発を開始したが、志半ばで倒れた。アメリカ型企業経営は利益追求を優先するが継続的な繁栄はありえないと考える。

論語の為政第二の019に次のような記述がある。孔子云う、「人民を統治するのに、政治権力を乱用したり、従わない場合には刑罰を以て脅したりすれば、人民は捕まりさえしなければ良しとして、自分の悪事を恥と思わないようになる。徳治を以て人民を導き、礼儀礼節を重んじて統治すれば、人民は自ずからは是非善悪の判断がつくようになって、良心に恥じるようなことはなくなるものだ」と。(論語に学ぶ会)

国を治めるのも会社を経営するのも同じである。徳を持って接すれば必ずすべてが善行を選択するであろう。これが親や友達を持つ人間の特性なのである。

私は創業以来、社員に命令したことはない。なぜなら当社の行動規範は経営理念にすべて書いてあるからである。それ以上に私が指示することが必要であろうか？仁を基底に目的・目標に向かって自分で考え、自分で行動する。それが当社社員の証である。

2005年2月1日「天は二物を与えず」

1894年(明治27年)11月27日、和歌山県海草郡和佐村で、松下電器の創業者となる、松下幸之助が生まれました。8人兄弟の末っ子でした。松下という苗字は、家が樹齢数百年の大きな松の下にあったことから付けられたものだそうです。

小地主の家で本来家は豊かでしたが、やがて父が相場で失敗。幸之助は9歳で大阪の火鉢店に奉公に出ます。そして、その後、自転車店、セメント工場等に勤めた後、電気にあ

こがれて大阪電灯に入社。ここに6年半あまり勤めました。

そして22歳の時、独立。妻と義弟との3人で、自宅の土間で作った電球ソケットの販売を始めます。最初は商品が売れずに苦労したようですが、やがてやがて扇風機の碍盤を受注してなんとか回るようになり、翌年松下電気器具製作所を設立するに至りました。

「天は二物を与えず」とは自分を人生に基いた言葉ではないかと推測されます。父の相場の失敗で若干9歳の歳で丁稚奉公に行かされました。これは明らかに不幸です。しかし、このときの苦労が有ってこそ、会社を興すことができたと考えます。その会社を大切に育てることができた。半分は幸せだった。このように考えることができます。

卓球の天才少女と云われる「愛ちゃん」にこの言葉が最も当てはまります。卓球との出会い、地獄のような練習にも耐え、卓球を自分の人生に変えました。私は天才ではない、私は人の何倍も練習したに過ぎない。だから、卓球が上手になっただけであると本人は語っています。

天は全ての人間に対して平等に才能の一つを与えています。天は貴方に二つの才能を与えていません。だから、一つのことを諦めず、継続して努力する必要があります。必ず開花します。私はそのように思っています。今の職業を天分と思い、諦めずに生きています。

2005年2月2日 「まず好きになる」

好きでやっていることは自分が主体になるから、自分で勉強する、自分で人に聞く、アイデアが湧いてくる。努力とか苦労することが気にならない。好きになれば、痘痕も笑窪に見えるように細かいことは問題にならない。

勉強の嫌いな人に勉強しなさいと言っても馬に念仏である。才能がある人は好きな事を見つけることが上手な人も知れません。好きだからこそ、苦労を苦労と思わない。嫌いなことは人真似をするからメッキが剥げる。だから、失敗すると諦める。逆に好きだから諦めない。だから、問題を解決できる。益々、面白くなる。更に上達する。良い循環になる。

私はこの仕事を好きでやっているから、苦労を苦労と思わない。自分で色んなことを創意工夫する。困難に遭っても、正面から向き合うことができ、なんとなく解決することができる。知恵も生まれてくる。

楽しい・幸せな人生を送るためには好きなこと最後まで諦めないことである。生活の為に仕事をする程、つまらない人生はない。自力本願の生き方をする為に先ず、自分の仕事を大好きになろう。

先日、イラク全土で民主化の選挙が行われました。調和・共存を否定していたフセイン独裁政治をイラク国民の選挙投票によって、終焉させたのです。米国ブッシュ大統領のイラク政策に批判的なワシントンポストやニューヨークタイムズ紙もイラク国民の高い投票率にブッシュ大統領の政策を批判しない論調に変わりました。

5月12日 「認知症の先端研究」

昨日、東京医科歯科大学の遺伝子を研究されている先生と共に日本医科大学の精神科の教授を訪ねた。認知症の研究をしているので協力してもらえないかとの目的であった。臨床的な立場で協力してもらえることになった。

日本は世界で最も高齢者比率が高く、超高齢化社会の問題が増えている。その中で認知症も大きな社会問題となっている。我々も他人事にはすまない。そこで、アルツハイマー病に関する先端研究がどのような現状にあるのかを簡単に紹介する。

1) 脳アミロイド検出の取組み

AD (アルツハイマー病) 患者の死後脳を精神病理学的に観察すると、海馬や大脳皮質などの領域において、細胞外及び神経細胞内にそれぞれ老人斑および神経原線維変化と呼ばれる病変が大量に蓄積されていることがわかる。これらの病変は病原性分子がβシートと呼ばれる二次構造を形成しながら線維化して沈着化したアミロイドであり、老人斑の場合アミロイドβペプチドが神経原線維変化の場合タウタンパクが、それぞれ主要構成要素となる病原性分子である。

重要なのは、AD発病の分子機構において、Aβやタウの異常は神経変化に至る連鎖反応の発端に近いイベントであり、認知機能障害などの臨床症状が出現するよりも20年位前の時点で、すでに脳内にアミロイドの沈着が始まっているということである。したがって、無症状の時期であっても中高齢者に対してポジトロン断層撮影 (PET) のような非侵襲的画像検査により脳アミロイドを検出できれば、ADの超早期診断が実現すると見込まれる。また、Aβやタウの異常を抑えてアミロイドの蓄積を阻む抗アミロイド療法を実現することで、ADの根本的な治療法がもたらされる可能性が高い。そのような新世代の治療法を生体で経時的に評価する際にも、アミロイドのイメージングが重要な役割を担うと予想される。

(老年精神医学雑誌 第19巻増刊号—1 2008. 1 脳アミロイドイメージング技術の開発現状と課題 (樋口真人) より)

2) AD (アルツハイマー病) の根本治療法確立

正常な脳に比べAD (アルツハイマー病) の脳は至るところが萎縮してすきまができています。萎縮する脳には特有の老人斑や神経原線維変化がみられます。ADの脳をみるとβアミロイド (Aβ) というたんぱく質の塊がみられます。このAβの蓄積が神経細胞の機能障害・死をもたらす、AD (認知症) の発病をもたらすと考えられています。このAβは前駆体たんぱく質 (APP) が2段階切断される過程を経て産まれます。厳密にはカルボキシ末端の長さから2種類が産まれます (Aβ40とAβ42)。ADの早期はAβ42の蓄積がみられ、以降進行するにつれAβ40の蓄積が顕著となっていきます。

家族性 (遺伝性) ADをもたらす遺伝子を解明されています。それはプレセニリンと呼ばれる遺伝子で、これが変異するとAβ42が増加することがわかっています。

前述のとおり、ADの原因はAβの蓄積であり、AβはAPPの切断から生じます。A

PPの切断はβ、γセクレターゼという2つの酵素によるもので、その酵素活性を阻害すればAβ産出されなくなります。つまりγセクレターゼの阻害剤の開発が、引いてはADの完治に繋がると期待され、これまで多くの臨床試験が行われてきました。しかし、γセクレターゼがNotch等の重要なたんぱく質の切断にも関与しており、γセクレターゼを阻害すると免疫異常などの副作用を引き起こしてしまうことがわかりました。したがって、AD治療薬の開発に向けては、APPのγセクレターゼを特異的に阻害する薬剤を開発しなければならなくなりました。(アルツハイマー病の分子病態と根本治療法確立へのパスウェイ 東京大学大学院薬学系研究科臨床薬学教室 教授 岩坪威)

このようにアルツハイマー病の早期発見や治療薬の研究開発が確実に行われている。アルツハイマー病が完治できる時代が早く訪れることを願い、これらの研究に従事されている方々の努力に敬意を表し、またご活躍を祈念したい。

2005年2月3日 「チグリス川湖畔に思う」

私が若い頃、イラクで仕事をしたことがあります。独裁政治の恐怖は外国人にも感じました。常に秘密警察に監視されているような恐怖でした。政治、宗教、国際情勢などをホテルの内外で話さないように努めていました。

暑い夏の日の沈む夕暮れ、兵役を終了したイラク北部のクルド人とチグリス川のほとりで生暖かいビールを飲みながら、政治、経済、宗教論を交わしました。アルコールが入り、脳細胞がかなり活性化したこともあり、私の下手な英語でも困ることはありませんでした。印象が残ったことで「私達クルド人は自分達の国家を作りたい」と目の中にある情熱を感じました。フセイン大統領のクルド人弾圧は日本国民の想像を超えたものでした。民族・宗教的な紛争から隣人とのイザコザまで相手の立場を尊重しないことで人々が対立してします。対立することは無意味ことだと思います。

相互に相手のことを理解して、希望と夢のある社会システムの実現に努力する必要があります。それには個人個人が思いやりのある言動を持たなければなりません。「仁」の実践こそ人間道であると考えます。

5月13日 「開札結果」

4月30日に経済産業省に平成21年度「地域見守り支援システム実証事業」に対して応札した。内容は本事業では複数年を予定し、限られた医療・介護等の資源を効果的に活用しながら効率的に医療・介護サービス等を提供していくための方策のひとつとして、情報システム・ITツールを活用した遠隔からの医療支援、介護支援等を中心とした「地域見守り支援システム」の構築等を行う実証実験で、総額が6億円/年*3年という大きな案件であった。

昨日の5月12日 経済産業省で11:00より開札があり、3社の代理人が出席し

て、結果を聞いた。

次のような結果となった。

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1. 日本システムサイエンス株式会社 | 175点 (落札) |
| 2. コガソフトウェア株式会社 | 156点 |
| 3. 三菱総合研究所 | 134点 |

入札説明会に10社の参加があったが、提案書を提出したのが3社のみとなった。その結果、当社は次点という素晴らしい成果を残すことができた。新しいことに挑戦することで、新しい可能性を見出すことができる。どんな部分が評価されなかったのか分析する必要があるにしても、この結果に大変満足している。

2005年2月4日 「会社は社会共有の財産」

私は企業（会社）とは法人税等税金を納める単位であると考えています。また企業は法人格であり、創業者や社長の人格とは違い、また、オーナーの所有物ではないと考えています。人格のある法人は全てが社会の共有物と考えているほうが円滑に進むのではないのでしょうか。売上や利益を誤魔化すような企業経営者は会社の意味を知らないまま会社を営んでいるのです。

社員を酷使する経営者もいますが、自分の子供が辛い目に遭わされると悲しみや怒りを覚えます。企業の属する全ての社員にも両親がいます。常に慈しみを持って社員に接する必要があります。サラリーマンが居酒屋で上司や企業の悪口を話すのを耳にすることがあります。自立できない人間の甘え以外にありません。ある程度の大人になった子供が親を悲しませ、迷惑を掛けることを楽しいと思うのでしょうか。決してありません。そこには情があるからです。中国では今でも子供が年老いた親を敬い養うことは当たり前です。

企業と社員の関係が正しい親子関係のようになれば、社会はその企業を見捨てることはありません。必ず発展・繁栄します。

5月14日 「則天去私」

文豪夏目漱石には笑った顔の写真が1枚もない。傲慢、孤独で神経衰弱と人生で幸せを感じたことは非常に少なかったようだ。夏目漱石が晩年に「則天去私（漱石の造語）」を理想とした。自我の超克を自然の道理に従って生きること求めようとしたものであり、漱石は50歳で死去したがこの則天去私の生き方を理解したのが1年前の49歳であった。

49歳の時に書いた随筆「硝子戸の中」の最後にその心境を次のように書いている。そこに或人は一種の不快を感じずるかも知れない。しかし私自身は今その不快の上に跨がって、一般の人類をひろく見渡しながら微笑しているのである。今までつまらない事を書いた自分をも、同じ眼で見渡して、あたかもそれが他人であったかの感を抱きつつ、やはり微笑しているのである。・・・私は硝子戸を開け放って、静かな春の光に包まれながら、

恍惚とこの稿を書き終るのである。

漱石は東京帝国大学英文科を優秀な成績で卒業するも決して幸福ではなく、苦悩の人生を過ごし、死ぬ1年前にやっと則天去私に幸福になれると感じたのである。

幸福に関する名言集を紹介するので味わってください。

- (1) 幸福はまず何より健康のなかにある。(G・W・カーチス)
- (2) 寝床につくときに、翌朝起きることを楽しみにしている人は幸福である。(カール・ヒルティ)
- (3) コロンブスが幸福であったのは、彼がアメリカを発見した時ではなく、それを発見しつつあった時である。(F. M. ドストエフスキー)
- (4) 一日だけ幸せでいたいならば、床屋にいけ。一週間だけ幸せでいたいなら、車を買え。一ヶ月だけ幸せでいたいなら、結婚をしろ。一年だけ幸せでいたいなら、家を買え。一生幸せでいたいなら、正直でいることだ。(西洋の諺)
- (5) 人生における無上の幸福は、自分が愛されているという確信である。(ヴィクトル・ユーゴー)
- (6) 楽しい顔で食べれば、皿一つでも宴会だ。(ブルデンチウス)
- (7) なんだ、あれが僕たちの探している青い鳥なんだ。僕達はずいぶん遠くまで探しに行ったけど、本当はいつもここにいたんだ。(メーテルリンク)

2005年2月5日 「国家観」

米国は地球温暖化防止のための「京都議定書」を経済への悪影響などを理由に離脱した。また、北朝鮮は国民や隣国に不誠実な国家である。これらは過度な国家意識と言える。

逆に平和ボケしたのかPKO活動を反対する一部の日本国民、北朝鮮の拉致解決に対する政府の弱腰な態度や中国の潜水艦による領海侵犯に対する事なかれ主義の政府、閣僚の靖国参拝問題を明確な判断を示せない日本国民、国家意識が乏しい国民といえる。根本に揉め事を嫌う村社会の体質から脱皮できないのである。つまり、国民一人一人に「お上」に逆らってはいけぬ考えが底流にある。日本人一人一人がきちんとした人生の基準となる哲学を持つ必要がある。

当社の理念の一つに「1. コンピュータシステム開発等を通じて日本国の発展並びに日本国民の福祉に寄与する。」と書いた。なぜ、このように書いたのか。私は日本国民であり、私の仕事が少しでも日本国や日本国民に役立ち、日本国や日本国民が希望と夢のある幸福な国を作る一助になればと思った。また、日本国が繁栄すると日本国民が世界の人人に寄与できると考えたからである。自分をきちんと明確にすることで相手を尊重できる。日本国・日本人であることを深く考えて言動することが非常に大切であると思う。

5月15日 「一杯の水」

私は健康を意識して規則正しい日常生活を過ごし、仕事をするのではない。普通の人よ

り無茶苦茶な生活をしているというのは過言ではない。経営者として当たり前である。しかし、創業してから10年目を迎えるがほとんど病気で休むことはなかった。経営者としての重圧はあるが逃げ出したいと言ったストレスを感じたことはない。好きでやっているのだから普通かなと思っている。私は寝床に横になったら5分以内に深い眠りに入る。いつも時間に追われている理由なのか、睡眠時間は4時間か5時間で十分である。いつも夜が明けない4時半から5時には起きる。

いつ頃からか忘れたが起床した後、必ずコップ一杯の水をゆっくりと飲む。最近はお湯を飲むようになった。私の健康法はこれだけである。健康に良いからと嫌いなランニングは絶対にしない。好きなことだけをするのが正しい健康法と思っている。

2005年2月7日 「塵も積もれば山となる」

塵も積もれば山となる。毎日の小さな努力が大きな結果になると信じています。毎日、社員は作業日報を書いています。日々の記録を書く行為により自分の作業を振り返ることになります。うまくいったのかいかなかったのかと多少たりとも反省をします。週報は一週間の作業を全体を通じて纏めるものであり、多少大きな枠で自分の作業を振り返ることができます。また、反省と改善案が生まれます。それを継続すると想像以上に自分が進歩していることに後日分りです。皆さんが普通と思っていることが他社では行われていません。当社の強みは日々反省して改善したいと思う心を持っていることです。

5月18日 「決算に思う」

先週の土曜日に税理士事務所から前年度の決算書の承認のための来社があった。決算書の作成は税理士にお願いしているが内容についてはすべて私の責任において作成されているものである。私がすべての内容は知っていることになる。これが税務会計の原則となる。

昨年10月から100年に一度の不況に見舞われ、作業依頼が減少する中で、上期の受注残があり、下期は耐えることができた。2009年3月期（2008年4月1日～2009年3月31日）の決算概要を述べる。

1) 売上高は10億2164万円

2009年3月期の売上高が10億2164万円で、2008年3月期の売上高が9億4274万円であり、前期対比で108.4となり、8.4%増収となった。

2) 経常利益は2332万円

2009年3月期の経常利益が2332万円で、2008年3月期の経常利益が8285万円であり、前期対比で28.14となり、72%減益となった。

3) 分析

2007年度の平均社員数は130名、2008年度の平均社員数は133名と3名の差で2年間の社員数はほぼ同じである。売上高が7889万円の増収になった割に経常利益が5953万円の減益になっているのは大変不思議である。なぜだろう。販売費および

一般管理費が1億3954万円増えている。そのうち社員の給与賞与の額が1億円増えている。法定福利費（社会保険料）が約1000万円増え、確定給付企業年金掛け金が2000万円増えている。社員の給与等に支払いが減益の原因になっている。2008年度の社員の平均年収が平均年齢29歳強で533万円となった。これは資格制度を導入していることで努力に比例して社員の生活レベルが向上することになっていることを証明した。しかし、資格だけ取得して、仕事に前向きでない社員がいると一部の社員から不満が挙がっている。

4) 展望

新年度は100年に一度の不況が直撃していることを実感している。売上高が10億円を達成することを目標とする。そのためにはエンドユーザに仕事を求め、作業一括できる体制を構築したい。これまで社員を採用し、その社員だけで請け負ってきたが、この方法に限界を感じている。仕事の外注化を図り、協力会社とともにさらに大きなプロジェクトをこなせるようにしたい。採用に関しては人間性を重視した方針を徹底し、少数精鋭を堅持することをこの不況から決意を強くした。賃金体系も社員の意見を十分に聞きながら適正な給与制度に変更して、不況に強い会社に脱皮していくために今年度中に改革を実施したい。

2005年2月8日 「真心の商売」

スーパーで買う人が多くなって、多くの商店街が廃れている。商店街で買う人は昔ながらから来店している年配層であろう。商店街の店はスーパーより値段が高い、これは仕入れや利益を考えると当然の結果となる。商品の値段や品質で競争する以外に知恵はないだろうか考える。付加価値の販売を考える。心である。

私は近くの自動販売機でタバコを買う。以前はガラス窓が開き、老人が座っていた。しかし、今は無人である。偶に老人が販売機にタバコを入れに来る。タバコを買うと「いつもありがとうございます。」と丁寧に辞儀する。その行為に何か嬉しい。自動販売機に「大変美味しいタバコを揃えました。」と張り紙があるときがある。良く考えると全国同じ銘柄で同じ味のタバコである。しかし、その行為にその老人の気持ちが伝わる。そこで買おうかなと思う。

近所に八百屋さんがある。10年以上前の子供が生まれる前、妻は良く野菜を買いに来ていた。その婆さんは妻を「若奥様」と呼ぶのである。その言葉が聞きたくて妻はその八百屋に行っていた。商品の値段では表現できない付加価値である。

当社は顧客に技術を売るが媚を売らない。最高の技術と最高の思いやりを売りたいと日夜努力している。デフレにより業界の月単価は下がるが当社の価格を下がらないようにご理解をいただいている。当社の価値を理解して頂くユーザとのみ取引したいと思っている。

5月19日 「株式公開」

5月1日の「最善を尽くす」で大きなプロジェクトを受注するためには銀行からの借り

入れだけでは限界があることを述べた。資金調達を容易できるように、会社の知名度を上げ、採用や仕事の受注を拡大し、研究開発を推進できるように、また社員が妻帯し安心して子育てできる環境を整備する必要があることを今回の不況で痛感した。

株式公開は株価を日々市場投資家から判断されることから経営者が株主に目を向けることで短期の利益に走り、従業員、顧客や社会性を軽視すると言われている。しかし、それは誰が株主になるかによって変わってくる。ヘッジファンドのような株価や配当の利益だけを目的とする株主が買い占めたら、デメリットが大きくなるが経営の議決権や安定株主を配慮した準備をすれば、株式公開のメリットを享受できると考える。株式公開が経営理念にある「コンピュータシステム開発等を通じて日本国の発展並びに日本国民の福祉に寄与する。」ことを大前提とする。

今年度は不況脱却を図り、来年度から株式公開の準備を行い、2015年に証券取引所に上場することを目標に計画実行していきたい。

2005年2月9日 「千里の道も一歩から」

千里の行も足下に始まる（老子）：遠い旅路も一歩進むことから始まるように、遠大な仕事も手近な物事から始まる。

2000年の2月に経営理念を作り、自分の夢を実現するために志を持ち、21年間勤めた会社を退職し、家族4人で現金50万の所持金から、会社を興した。神田駅前のレンタルオフィスビルに一坪の薄い壁で仕切られた家賃2万円の事務所からO君と二人でスタートした。その時は、お金も取引先も人脈もなく、これからどのようにするか考えていたのである。

入居してまもなく、隣の6坪位の部屋に怪しい集団が入ってきた。電話の話し声が大きくなっていった。会話の内容を聞くと高金利な個人融資を回収しているようだった。今までこのような世界を知らなかった。サラ金にお金を借りた人がどのような末路になるのか、電話の会話内容から想像できた。このような場所にいと遠い上がっていけないと思った。

SE時代にはNTT関連の仕事の開発が多く、NTTや日本テレコムなどの電気通信事業者や大手メーカーの人に連絡した。しかし、会社を作ったばかりでは取り合ってもらえなかった。今考えれば当たり前であるが必死になっているときにはそれもわからなかった。また、幾つかの銀行に融資依頼を頼んだが1円たりとも貸して頂けなかった。このように暗黒の闇の状態であった。信念と微かな希望だけが残っていた。前の会社が取引していない会社に足を運んだ。

昭和63年頃に一緒に仕事をした沖電気の人を思い出した。彼がどこにいるのかわからなかった。沖電気の代表に電話したが会社を設立していなかったので社名なしの個人名だけを伝えたら、交換手は社員が沢山いるので分らないと返事だった。海浜幕張に行き、受付で彼が所属と電話番号を聞いた。後日電話して、会食をしながら、これまでの経緯を話した。彼は私に出来るだけのことをするからと約束してくれた。希望が見えてきた。その

頃、S君が事務所に来た。3人の椅子を並べることが出来なかった。新しい事務所を探した。家賃が高くて、方々の物件を捜し歩いた。たどり着いたのが上野で8坪10万円の事務所だった。それからいろんなことがあったが沖電気工業から常駐型一括請負形態で仕事をもらった。IP交換機の開発を貰った。5月から作業開始した。その後困難なことが山のように降りかかってきた。しかし、都度、最善を尽くしたと今でも思っている。

創業から5年間で社員数68名になった。日々の一步一步の積み重ねで現在の状況が実現できた。多くの人に助けられ、ここまで実現できた。「有り難い」と思っている。これからも日々の一步一步の積み重ねで未来を作って行きたいと思う。当社の立ち上げの仕事を作ってくれた沖電気のM氏には深謝している。

5月19日 「定婚店」

中国唐の時代に文人によって書かれた短編小説に「唐代伝奇」がある。仙人や妖怪など怪異な物が出てくる話が多いので伝奇と呼ばれている。この短編の中に「定婚店」という物語がある。われわれが知っている「赤い糸」はこの物語を起源としている。

男女が自由に自分の意思で結婚しているのではなく、冥界の役人が男女の婚約を決めている。冥界の役人が夫婦となる者たちの足と足を赤い縄で繋ぐと絶対に逃れることはできないという。

唐の憲宗の元和年間のこと。杜陵に住む韋固という男は若い頃に父に死なれて以来、後継ぎを残すために早く結婚して身を固めようとしたが、縁談はなかなかまとまらないでいた。ある時、潘家の娘と縁談をまとめるために、彼は宋城の地にやって来た。ふと見ると、一人の老人が店の前でその月に向かって書物をひもといていた。老人が何者なのかを尋ねた。すると驚くべきことに、老人は冥界の役人であると告げた。しかも下界の全ての婚姻を司ると言うではないか。韋固は早速、自分と潘家との縁談がまとまるかどうか尋ねた。しかし老人は首を振って言った。「お前の結婚相手は潘家の娘などではない。この店の北に住んでいる、野菜売りの陳婆さんの娘じゃ。その娘は今は三歳だが、十七歳になったらお前さんに嫁いで来るはずじゃ。」お前さんの足も、既に陳婆さんの娘と赤い縄で結ばれている。それ以外の者と結婚など出来ようはずもないわい！」

市場ではひどくみすぼらしい、やぶにらみの老婆が幼子をあやしていた。その女の子もやつれていて醜い顔をしている。老人はその娘を指さして言った。「あれがお前の妻じゃ。」韋固はそれを見て失望を感じ、老人に尋ねた。「あの女の子を殺したらどうなるのですか？」そこで彼は供の者に陳婆さんの娘子を刺殺させることにした。供の者は市場に潜入し、娘子の心臓を刺そうとしたが、狙いがはずれて眉間を傷つけてしまった。人ごみの中だったので再び刺すというわけにもいかず、そのまま逃亡して主人に報告した。

その後も韋固は結婚相手を求め続けたが、一度として縁談がまとまることはなかった。それから十四年たち、彼は恩蔭（祖先の功績によってその子孫が官職を与えられること）によって相州の参軍に任命された。上司にあたる刺史の王泰は彼の仕事ぶりが気に入り、

自分の娘を彼に嫁入りさせることにした。その娘は十六、七歳の美少女であった。彼はこの婚姻を非常に喜んだ。

しかし彼女は眉間に花子という飾りを貼り付けており、入浴の時も寝る時もはずそうとしなかった。韋固は昔、陳婆さんの幼子を襲わせたことを思い出し、ある日眉間の花子のことを妻に問い詰めた。妻は泣きながら答える。「実は私は、刺史の実の娘ではなく姪にあたります。実の父は宋城の太守でしたが、私がまだ赤子の頃に亡くなりました。母や兄もその後すぐに亡くなり、私は父の残した宋城の荘園で、乳母の陳氏に育てられました。しかし三歳の頃に、陳氏と市場を歩いていた時に、眉間を暴漢に刺されました。その後私は叔父のもとに引き取られましたが、眉間の傷は未だに消えず、こうやって隠していたというわけなのです。」

韋固はその話に衝撃を受けた。「その乳母の陳氏というのは、やぶにらみの目をしたお婆さんじゃなかったかね?」「確かにそうでした。でもなぜその事をご存知なの?」彼は妻に、十四年前のこと、婚姻を司る月下老人に出会ったことや、幼い頃の彼女を殺そうとしたことを全て告白した。妻は夫の全ての罪を許し、ただただ運命の巡り合わせの不思議さに感嘆したのであった。宋城の太守はその話を伝え聞き、韋固と老人が出会った店を「定婚店」と命名したのである。

先日、N社員がT社員と付き合っていると酒席で話した。いつからだか聞いたら、昨年の秋からだ。噂は広がっていたが私の耳には届かなかった。腹が立った。私が両方とも採用した。私が採用した女性社員を不幸にしてはならないと釘を刺した。今後はどうなるのだ。N社員は「僕の両親には紹介しました」この夏休みにT社員の両親に挨拶にいくと話した。そこまで話が進んでいるなら、許すことにした。両名は私の縁で相思相愛になったのだから、これも運命だろうから、その赤い糸を外すことはないだろうな!と聞いた。外しませんと答えた。ここで私がその糸を強く結ぶ。それを外すことはできない。無理やり外すならば、終生私はお前を許さないだろうと付け加えた。恋愛には不況は関係ないなとジョッキのビールを一息に飲み干した。

2005年2月10日 「憲法改定議論に思う」

日本国は日本海と太平洋に挟まれた島国です。歴史的にも他国から侵略され、植民地になった時代がない国です。多くの国は他国や他民族と戦争し、支配したり、支配されたりした歴史を持っています。大陸の中にある多くの国は戦争の繰り返しで国家意識や民族意識が強くなっています。日本は単一民族で国家や民族を意識する必要が有りませんでした。

しかし、大正時代、昭和20年までは国家を大きくすることが帝国意識を高めると一部の人間達が誤った思想で国民を先導していきました。結果として戦争に破れ、国や民族思想を持たないまま、経済成長を遂げ、豊かな国になったのです。国際化が目覚しくなっている現在も日本国がどのような方向に進めばよいのかと言った理念がありません。理念のない会社は長期に亘り発展・繁栄しないと言われていますが、国家も同じであると思います。

日本国民一人一人が「国とは何か」、「国を愛するとは何か」を真剣に考えることが必要だと思っています。それが他国のことを思いやることになり、国際社会での日本の役割も定まっていくのではないのでしょうか。また、憲法改正が議論されていますが、憲法前文に日本国や日本国民が進むべき方向を国家理念として纏める必要があると思います。

5月21日 「信用されるためには」

認識とはある物事を知り、その本質・意義などを理解することである。人生にも目的があり、勉強や学問することにも目的がある。さらに、事業すること、仕事すること、結婚すること、様々な行為には必ず目的がある。それを知ることが必要だ。

私は会社を経営するために、各種の知識が必要だから経営に関する知識を勉強している。また、人を使うのだから、人の心を読むことを学問している。将来の経営リスクを軽減するため、又素直で能力の高い社員を育成するために教育できる環境を構築し、優秀な人材のいる会社や団体との取引や交流をするように努力している。

私は自分及び他人に約束したことは必ず約束したことを実行してきた。簡単のように思えるが難しいことである。だから、自分の能力を認識して、小さな約束から実践してきた。

私は人に信用される人間になるように努力してきた。私も信用できる会社や人間を選別してきた。遅刻や突然に休む人間は信用できない。言い訳する人間は信用できない。生きることで何が大切か優先順位を考えない人間は信用されない。目的を明確にして、失敗を恐れずに挑戦する人間は信用できる。

5月21日 「中小企業白書」

2009年版の中小企業白書を眺めている。斜め読みしているが私には参考になるところが少ないのが残念である。統計データを見るとどのような現状があるか浮かび上がる。

非一次産業の企業数が(企業数=会社数+個人事業所)が2001年では468万9608社あり、2006年には419万7719社ある。この5年間で49万社少なくなっている。個人事業主を除く企業では2001年では159万5492社あり、2006年には149万3258社あり、この5年間で約10万社少なくなっている。大企業においては2001年では1万2318社あり、2006年には1万1961社あり、この5年間で525社少なくなっている。

2006年の常用雇用者と従業員(会社と個人事業所の合算)は中小企業の場合で2783万555人、大企業が1229万1430人である。合計で4012万6980人になる。このように日本の会社数が少なくなっている。これは日本の産業が明らかに空洞化している。産業の空洞化は雇用の空洞化にもなっている。今回の世界同時不況は空洞化をさらに拍車をかけている。

帝国データバンクによると、2007年には1万959件の倒産があり、2008年には1万2681件の倒産が報告され、今年の1月から4月までで4672件の倒産が発生し、企業倒産が収束しない。また多くの企業が赤字転落となり、深刻な不況が社会全体をも暗い影を落とし、深刻な事態になってきた。日米の株価は多少上がってきているが一進一退の状況でいつ下落するか不安が付きまとっている。国が懸命な景気対策を行っているがなかなか効果が上がってこ

い。ドルに対する円相場は94円半ばまで円高になった。これは米国の景気回復が遠のくとの観測が流れたからである。

企業はどのようにすれば、この危機を乗り越えられるのか見えてこない。今こそ「イノベーションだ！」という具体的なことを書いている人は誰もいない。私は新しいことに挑戦してきたから、これまでやってきたことを行うだけである。いつかは光明が見えてくる。それまで耐え、がんばろうではないか！

2005年2月15日 「保険契約外交員への激怒」

私は正直に素直に生きることを基本に暮らしています。生命保険会社の外交員が2月になると急に来社する回数が増えました。切羽詰った顔、悲しい顔をします。契約を人情に取ろうとします。私は困った様子に情けで、切り替え契約を行うことに同意します。しかし、ひょんなことで、営業部長が私の依頼で契約すると外交員に指示していたことが分りました。狡賢い手段を使っていたことが明確となりました。何人にも私は嘘を聞くことは嫌いですと話しています。当然、保険の外交員にも話していました。私は人情を大切にします。しかし、その人情を踏みにじる行為を断じて許すことはできません。月曜日の早朝にその外交員に激怒しました。外交員は涙を浮かべ謝罪しました。貴方は嘘を吐いてまで仕事をするならば、貴方の人格は墮落していきます。貴方は何ため生きているのか判らなくなります。そのような仕事は辞めたほうが良い。もっと、別の職業に就いたほうが幸せになりますとアドバイスしました。上司の事や同僚等の置かれた状況などを涙声で話しました。その内容で私の怒りも沈静化していきました。目先の利で行動すると大きな大切な事を失くします。

今回の契約は白紙に戻します。皆それぞれの事情を持ちながら必死で生きているのです。それを理解しなければなりません。そのように話しました。多少元気になり、帰りました。しばらくしてから、営業部長から電話がありました。大変ご迷惑を掛けました。今回のことを試練と思い、頑張っていきたいと前向きな発言をしていました。口先だけの反省ではなく、心からの反省をし、生きてもらいたいと思います。

私の事を「毒なのか薬なのか判らない」と感想した人がいるそうです。その人に答えます。目先や小手先で生きる人には私は毒になります。素直で正直に生きる人には良薬になります。

94歳まで保険外交員をしていたその道では有名な老人が後輩に残した言葉を紹介します。「水や肥料を与えないで、美しい花を咲かせることはできない。」

5月22日 「読書」

私がこのブログを書き続けているが何でも知っていられる、幅広い知識と教養があると感心されたことがある。そんなに本を読んでいるわけでもない、そんなに勉強している訳でもない。

以前から読書は良いと言われていたがなぜ読書は良いのか私はよくわからない。そこで「読書の目的」をネットで検索したら、一番妥当な答えがあった。

- 1) 単に楽しむ
- 2) 単純な発見を得るため
- 3) 専門知識を得るため
- 4) 新しい世界の観点を理解し評価するため
- 5) 人生の新しいテーマを得るため

読書のスタイルには音読、黙読、速読、精読、積読と査読がある。なぜ読書するのかとの単純な疑問の回答にはならない。年に本を200冊読んでいると自慢している人がいるがこの人は積読して、何も残っていないだろうし、また彼の人生は暇だから読書して暇つぶししているのだろうと思っている。馬鹿な人間と言ってよかろう。

学生までの読書と社会人になってからの読書は根本的に違う。学生までの読書は一般的なまた専門的な知識と教養を身につけるものであり、社会人になる準備をすることである。社会人の読書は生きるために知恵を身につけることや技能を磨きあげるために行うものであると考える。読書の「書」とは参照されることを前提に書かれた情報のことであり、これを文書と呼ぶ。小説、専門書、新聞等も文書の形態である。だとしたら、すべて情報であり、この情報をどのように処理するか重要になってくる。

私の読書の目的は先人が子孫に伝えたい文書を読んで自分の人生に役に立つことである。つまりは幸せに近づきたいことが目的である。また、人間である以上一人では生きられない。人に幸せをもたらすために読書している。

2005年2月16日 「経営者と社員の違い」

経営者が孤独なのは本当です。多くの意見を参考にしますが、最終的に決断して、その結果について責任を負わなければならないからです。

一般の社員は台風のような大きな出来事に驚きます。しかし、経営者は動じません。逆に木枯らしや春風のような一般社員が気に留めない風に敏感に感じるのが経営者です。この風が何を意味するのかを考えることが必要です。動物が地震の前に感じるような感覚なのでしょうか。それを説明することは困難なことです。経営者は経営上の六感があるものでしょう。声なき声とは私の言う微風のことで同じことでしょうか。

5月24日 「八正道」

盧武鉉前韓国大統領が親族の不正資金疑惑の捜査に苦しみ、23日早朝、自宅近くの裏山から飛び降り、収容先の病院で死亡したとの報道が流れた。遺書には「私のせいで、いろいろな人が受けた苦痛はあまりにも大きい。今後、受ける苦痛も推し量れない。余生もほかの人の負担になるだけだ。健康が思わしくなく、何もできない。本を読むことも、ものを書くこともできない。あまり悲しまないでほしい。生と死はすべて自然の一部分ではないか。申し訳ないと考えないでほしい。だれも恨まないでほしい。運命だ。火葬してもらいたい。そして、家の近くにごく小さな石碑の一つだけ、残してほしい。」苦勞して韓

国大統領まで登り詰めた人物の終焉にはあまりにも悲しい出来事である。これは権力に群がり、利益を欲しいと思う側にも問題がある。

日本漢字能力検定協会の久保前理事長が同協会を私物化し、また親族が協会を貪り、協会に多大なる損害を与えたとして京都地検特別刑事部は19日、久保昇前理事長（73）と長男の久保保浩前副理事長（45）について背任容疑で逮捕状を取ったとの報道が流れていた。なんと疑いたくなる。

私は嘘と不正は大嫌いである。権力を持つと見えなくなるものがある。それは努力とか苦労とか他人の痛みである。どのような立場になろうとも八正道を確認して言動しなければならぬ。八正道とは

- 1) 正見：正しく真実を見ること、身心のいっさいについて無常の事実を知り、自分の心身を厭う思を起し、心身のうえに起こす喜や貪の心を価値のないものと斥けること
- 2) 正思惟（しょうしゆい）：正しく考えること。財欲、色欲、飲食欲、名誉欲、睡眠欲等の「五欲」にまつわる、人間の日常生活の否定であり、それを思惟すること。
- 3) 正語：妄語を離れ、綺語を離れ、両舌を離れ、悪口を離れること。
- 4) 正業：殺生を離れ、不与取を離れ、愛欲を離れ、愛欲における邪行より離れること。
- 5) 正命：まちがった生活を捨てて正しい生活を営むこと。
- 6) 正精進：直向きに努力すること。
- 7) 正念：身にありて身を観察して住し、熱心にして正しく理解し、精神を集中し、明瞭な心と精神集中と、専一なる心とをもって、如実に身体を知ること。
- 8) 正定（しょうじょう）：心身一致の禪定において正しい智慧を完成すること。

2005年2月20日 「短絡的な思考に義憤」

人間、誰しも感情的に腹を立てることがある。特に思い通りに行かないとき、自分の思いが通じないときなど色んな局面で立腹することがある。

ソフトウェア会社が安い単価だけの理由で海外に仕事を発注する機会が増えている。インドなどに会社を作ると大変安い賃金で雇用することができる。日本が構造的な不況に陥っている中で海外に拠点を作って、目先の利益に走ることは自分の首を絞めることになることをすでに製造業は経験している。中国やインドで外国人を教育して、優秀な人材を育てるのも必要であるがその前に日本人を育てるのがあるのではないのか。

逆に日本人は自分の能力以上の賃金を取ることに頭を使っているといつの間にか外国の優秀な人材に自分の仕事を奪われることを理解すべきである。多くの日本人が長期的かつ広域的視点に立ち、物事を見つめる必要がある。短絡的な思考で行動している人に義憤を感じる。

今後、日本のSE・PGは幅広い知識と深い技術や集中力で提案力、生産性及び品質を高めていく必要があると思う。

5月27日 「アリの組織論」

会社の組織は社長、役員、管理職、一般社員で構成される。上からの命令で行動するパターンである。頂点にいる人が悪人ならばすべてが悪事をするだろう。その結果、その組織は消滅する。頂点にいる人が無能ならば、その組織は崩壊していく。頂点にいる人が徳のある人ならば、その組織は活性化し、繁栄するだろう。しかし、徳のある人が世の中非常に少ない。有能な人も欲深い。現代社会では企業が継続して人間社会は繁栄するが多くの企業はリーダーの善し悪しで栄枯盛衰が繰り返される。

私はリーダーの資質で企業が栄枯盛衰しない方法論がないか考えた。子供のころから蟻に興味があり、梅酒を作るビンに土を入れて、その中に蟻を入れて観察したことがある。

蟻には女王蟻、働き蟻、兵隊蟻、雄蟻、処女王蟻がいる。それぞれが役割を持っているだけで、別段に誰が命令しているでもない。生きるための方法のみが記憶され、自分の意思で行動しているようだ。しかし、1億年以上も生き、地球上でもっとも繁栄している動物であることは事実である。そこに強い組織論が隠されているような気がした。これを企業の組織に組み込めないか考えた。そうすると、女王蟻は企業を継続継承されるものであるから「企業理念」になる。働き蟻、兵隊蟻、雄蟻はその組織が生き残れるようなプロ集団でなければならない。処女王蟻は新しいコロニーを作り、組織の拡大と絶滅を避ける役割を持っている。企業で言えば300人以上になれば新しい組織を作り、新しい事業を行うことがよいのではないかと考える。

蟻は命令を受けなくて自発的に楽しく役割を果たしているようだ。人間も同様に仕事を楽しくするためには自発的でなければならない。当社社員は研究開発できるような人間に向いている。命令を受けて仕事をする人は、従来型の企業に適正があるのではないだろうか。当社社員は自発的に創造的な仕事を仲間と楽しくできる集団にならなければ、蟻の組織論を実現できないと考える。自発の始まりは笑いである。当社の社員は笑いがうまくなるといけない。みんな大笑いができる集団になろうではないか！

2005年2月21日 「人事を尽して天命を待つ」

「人事を尽して天命を待つ」[胡寅「讀史管見」]：人としてできるかぎりのことを実行し、その結果は天の意思にまかせる。

私は採用するとき、世の中の常識を考えていない。私はなぜ貴方がここにいるのか、なぜ存在するのか基本的なことを話す。採用するとか採用しないとか、入社するとか入社しないことは次のことである。この若者が知りたいことを私の経験したことから判ったことを伝えることを前提としている。

面接が4～5時間なる。10時間を超えることもある。人事を尽くして天命を待つに等しい。その人の為に尽くすことが私の使命で考えるからである。入社するしないは結果にすぎない。

しかし、30分程度で終わることもある。時間が短いほど透明人間と話している錯覚に陥る。私の言葉が伝わらない。早々に終わる。人事を尽くす価値のない生き方をしているから、他人も人事を尽くしてその人間を救いたいと思わない。そのような人の試験点数は非常に低い。

どのようなことにも真剣勝負で挑んでいる。後悔、迷い、無念などの悲観的な感情が少なく
なっている。その分、透明人間（心の通じない人間）とは接触しないように心がけている。

5月29日 「百花繚乱の春を信じて」

辛い長いトンネルを歩いている今の心境を語るならば、どこまで歩けばトンネルの出口
があるのかだけである。それは多くの経営者も同様の心境にあるのではないだろうか。企
業には社会的責任があり、その重圧を受け止めなければならない。そんな時、古人の言葉
に勇気を付けられる。

立石電機（現オムロン）の創業者立石一真はこんな言葉を残している。「不況の時には
あとの人々のために施肥せよ」この意味は不況になると苦しまぎれに、いままで溜め込ん
できた“見えざる資産”を食い倒して、“見える資産”である売上利益をどうしても追い
がちである。私たちはそれをいただきながら未来のために種をまき肥やしを施す必要があ
る。「今咲く花は過去の創意工夫の累積の上に咲いている。百花繚乱の春を迎え、すばら
しい収穫を得るためには、新しい創意工夫をふんだんに生み出し、惜しみなく企業に施肥
するべきである。過去の施肥による実りを享受するものは、後にくる人々のために今日惜
しみなく施肥しておく義務がある。」私はこの言葉に勇気を貰う。

過去に貯めた資産で今新しいビジネスモデル構築に挑戦している。「廃油回収ロボット
の実証実験」「生体センサーを使った在宅医療支援システムの研究開発」「認知症簡易診
断システムの研究開発」「ソフトウェア開発現場で使えるグループウェアの製品開発」な
ど基礎研究と自社製品の開発を行っている。また、自治体や国のシステム開発案件に提案
書を作り、入札に参加している。すでに数件を落札している。これらの貴重な経験を通じ
て、創造的事業を作れるようになりたい。今、本当に苦しい状況が続くが出口のないトン
ネルはない。太陽の光が眩しいトンネルの出口まで社員を引き連れて歩かねばならない。
その出口の先には百花繚乱の春が待っているからである。

2005年2月23日 「道徳」

道徳とは人々が、善悪をわきまえて正しい行為をなすために、守り従わねばならない規範の総
体。外面的・物理的強制を伴う法律と異なり、自発的に正しい行為へと促す内面的原理として働
く。

人格とか性格は毎日の言動によって形成されていきます。私は5年間、多くの応募者を面接し
ているのでその人物から子供時代の家庭環境や親御さんの考え方や生き方で何となく判るよ
うになりました。

ある私立中学の学校説明会で25年間医学部で生徒を教えていた校長の話思い出した。大学
を退学する者、医者になって問題を起こす者は道徳心や倫理感の欠如が原因していました。それ
は子供時代の家庭での躾や小中学校での道徳教育の不足に他ならないと考えています。よって、
我が中学校では学力も大切だが、礼儀作法や道徳教育を厳しく教えます。人に迷惑を掛ける生徒

は即退学して頂きます。その辺を父兄にご理解を賜りますと学校の特徴を説明しました。良い学
校だなと思いました。

当社は社員に素直な人間になることを優先した教育を行っています。素直な心で学べば、能力
や才能は開花し、必ず大成すると信じているからです。

5月31日 「心の井戸水の枯渇」

米国のサブプライムローンに端を発した金融システム破綻による世界同時不況が始まっ
てから8ヶ月が過ぎた。この間にいろんな出来事が国内外に起こったが各国の協調的な財
政投資によって景気に明るい兆しが見えてきた。私は経営者として100年に一度の不況
に対してどのように言動するかを明らかにするために1月5日から5ヶ月間書き続けた。
毎月20回を最低目標に書き続け、今日で109回目となり、送信した文字数が17万6
千文字を超えた。これまでに私の人生観、私の経営哲学を十二分に伝えたとする。心にあ
る井戸の水を毎日桶で汲み取り、もう井戸水が枯渇するかのように書きたいことが湧き上
がってこない。今日のメールを最後にしばらくの間、井戸に汲み取れる水が溜るまで休憩
したいと思う。

現代社会において、幸福を感じる人が少ないことが大変残念に思うがそれは希望とか夢
を持っていないことや人生哲学を持っていないことである。私は思う。古人たちが苦勞し
たことを記録し、歴史が継承させたいと思った文書、いわゆる古典を読み、不動な心で生
きることを知ってほしい。また、なんでも良いから夢を持ち、その夢を実現させるまで諦
めないでほしい。

5月23日（土）に東京理科大学 専門職大学院 総合科学技術経営研究科総合科学技術経営
専攻で32名の社会人学生（実力のある企業の役職クラス）に「ITネット概論」の講義を行っ
た。社会人学生が経営者の私にどのような感想をもったかを紹介する。

（1）とても参考になるお話をしていただきました。組織の考え方、教育に対する考え方など独
自なものも多くいろいろと考えさせられました。特にアリの組織論というのは、自分でも深く考
えてみたいと思う。

（2）古賀さんのお話は一企業に勤める私にとってはまさに異文化でした。経営者に必要な要素
を自身の体験・言葉で語られて、そのエッセンスを十分に感じる事ができました。

（3）実際に会社を作られてこれまで成功してきた人の話を聞いて、ためになりました。何か新
しいことを始めようとするものの考え方。最初に儲けありきではない。儲けがある時に新しいこ
とをやってしまうということが出来るのがリーダーに必用という事が分かりました。

（4）起業した起業家の思い、熱意、経営の考え方を聞くことができ、さまざまな工夫をしなが
ら企業運営をしていることがわかりました。従来の仕組みにとらわれず、新しい発想から社内の
仕組み、ビジネスの仕組みにチャレンジすることが大切であることを学べた。

（5）私自身が現在中小企業に勤めていますので、起業として、参考になることや給与体系は従
業員からすればプレッシャーはすごいと思いますが、面白いものだと思います。

(6) 社会貢献の話の視点から事業を創造するには継続性が問題とあるが、社会が助けてくれるようになる必要が大切であると考えられる。思いやりの発想は今後の研究開発に新たな視点が変わったと考える。

(7) 古賀社長による現役の経営トップの考え方を拝聴して、もっと“自社に活かされば”と思える問題が多々ありました。先生の講義でもありましたが、「夢」とのほどのものではないが、「今後の自分の在り方」をはっきりさせ、未来のビジョンが本人の大きなモチベーションにつながっていると感じました。

(8) 「ITの本質」を理解するという言葉に共感しました。優秀な人材は会社に残るというシステムが結局は社会に役立つ会社につながっていると感じました。

(9) 古賀社長の人を育てる企業理念に大変共感いたしました。チャレンジ精神！私もがんばります。

(10) 「経営者は外に出て行くことが大事である。」という話に感動しました。人間性が一番です。それをいえるリーダーがもっと必要であると感じました。

(11) ピラミッド型でない“アリの巣”組織論（共感する女王の下で持てる能力を発揮）に感銘を受けた。収益を意識しない新規企画へのチャレンジを可能にする財務基盤をつくられたのがすばらしいと思った。

(12) IT企業の経営は製造業とは異なった考え、つくることが重要と考えた。ピラミッドではなく、チームで仕事をする。

(13) 社会に役立つ資格を勧める。（仕事に役立つ資格でなく）300人くらいの規模が適度である。（大きくすることの追求ではない）

(14) 古賀さんの意見に対しては、半分賛成、半分反対といった感じでした。

賛成：社会問題をビジネスとして考えている。

疑問：いまの時代に珍しい過度な実力指向、たぶん素晴らしい人なのだろう。

(15) 古賀社長のお話は、現在の日本のソフトウェア会社の常識を覆す内容でした。その中で、今は儲からなくても、社会には必要だと自分が信念をもって進めていけば、絶対実を結ぶという考えに勇気付けられました。

(16) ベンチャー企業を自分で作るというのは、かなりリスクだと考えていた。それ自体の考えは変わらないが、情熱で乗り越えられるのではと思った。里山の動物の件、実家でまさに困っているところである。良い解決法を期待したい。

(17) 社員を大事にする会社にしたい、社会に貢献する会社でありたいという強い思いが、古賀さんの話より伝わってきた。その思いを実現するために実行を起こしたという事実で感銘を受けた。人間力を磨くことが大事だという話が印象的であった。

(18) やはり起業家は熱いですね。大変よい刺激を受けました。事前に資料を読んでいるときは、社会のためになるという高い理念だけで成功できるなんて、少し不思議に思ったが、その裏には人事の仕組みや採用方法などのすぐれた仕組みがあったのかと納得です。

(19) 非常に興味深い話を聞かせて頂きました。古賀さんは太い芯を持っていらっしゃるとい

うこと、さらに質問に対して明確に答えられることを感じました。起業はおおきな志が大事であるということを感じました。刺激のある内容でした。

(20) IT産業におけるビジネスの仕組みの多くは、従来の知識労働者（専門家）が行っていた仕事をセンサーとコンピュータとネットワークを組み合わせて、代替または支援することであると理解した。

(21) 他の講義いろんなケースを聴きましたが、本物の現場を感じるケース、モデルを聞いたと思います。とても参考になりました。

(22) 法人を、税金を収める一単位とし社会に貢献している参加者であるという考え方が新鮮でした。企業の社会貢献として本業に集中し、収益を上げるのが本来の社会のあり方なんです。

(23) 起業の話も面白かったが、会社の理念、考え方に対するありがたさについてとても感銘を受けた。組織論的な考え方は独特で、目からうろこであった。SIのプロジェクト管理に活用できそうだなと思った。

(24) 50万円の元手から1000万円を集めて資本金とし、10年後には年商10億円の会社に育てた。中小企業に勤務している自分としては、非常にためになる話でした。大手企業に口座を作ってもらって苦労はよくわかります。うらやましいと思いました。「老人の意見を尊重する会社は減びます。」「会社を良くすればいい人が残ります」名言です。

(25) ITを使ったベンチャービジネスの具体的な話が伺え、大変ためになりました。油回口ポットシステムなど、あとはサービスレベルの向上とスーパーなど主婦の利用する場のコラボなどでビッグビジネスになるのではと思いました。コガソフトさんの事業モデルは特殊かと思いますが、多々勉強になるものがありました。私も起業する際には参考にさせて頂きたいと思います。

(26) これまでも、この講義では様々な優秀なゲストスピーカーのお話を伺ってきましたが、その誰よりも「強い信念」を感じるものが出来ました。これまでの方々もきっと信念はお持ちであったと思いますが、起業されてる方にはそれを「伝える力、発信していく力」も必要なのだろうと感じました。「自分のファンを作る」という言葉が特に印象的でした。

(27) 経営に必要なものは、「哲学・思想」ではないかということ強く感じました。かつ、経営者自身の「哲学・思想」を社員や社外に伝えていく努力が必要で、それが無いとやりたいことが実現できないのではと感じました。

(28) 私はゼミで空気圧機器を用いたアシスト機をテーマの中に取り入れようと考えているので、介護システムの話をもう少し詳しく聞きたかった。

(29) 事業企画は、社会ニーズを満たすことが第一義と言い切れるところがスゴいと思いました。利益は後からついてくるとの信念が支えていると予想しますが、どこかの段階で収益モデルも考えているのだろうと思います。事業継続のためにはキャッシュは必須です。

(30) 1. 経営者の重要なスキルとして営業があり、相手の信用を得ることが次に繋がる。自分のファンを作るというのは興味深かった。2. 列の組織論で命令なしでも人が動くインセンティブを与えるというのは面白い。

(31) 儲けではなく社会に必要なコンセプトをまず考えよ！新規事業はこの志が大切だという

ことが、非常に良くわかった。

(32) 古賀さんの話は参考になりました。経営者の理念が会社の成長を決めるのだと痛感しました。

仕事をしながら、大学院で勉強している社会人学生の姿の中に日本の未来を見ることができる。日本の未来は明るい。日々 to 学問を続ければ、その人の頭上に幸福の黄金の環が現れてくるだろう。最後に皆さまのご多幸を祈念して、しばらくの間、さようなら。

2005年2月26日 「時の持ち方」

全ての人の時間は同じである。しかし、能力は違う。同じ時間で生きているのだから同じ能力であってもおかしくない。しかし、ピンからキリまで能力差がある。どうしてだろう。時間をどのように使うかで決まってくる。忙しいから勉強できないと言い訳し、暇になったら、忙しかった分、休みを取って遊びたい。いつ勉強するのかと思う。30分早く出社して、毎日30分規則正しくコツコツ勉強する人がいる。前者に部類する社員が多い会社は何時もバタバタし会社が行き詰まっていく。後者に部類する社員が多い会社は仕事が暇になることはない。

私は無理に仕事をとらない。難易度の高い仕事は引き受けるが無謀な仕事はとらない。ゆったりと長期的な戦略で仕事をする。不景気になれば多くの会社が慌てふためいて営業する。無理な注文を受けてくる。私は景気の変動で仕事をしないようにしている。景気の変動に関係ない良い仕事をするのでより良い仕事があるような「時の持ち方」を心に刻んで経営している。どのような状況でも動じないように日頃心を訓練している。